

C122-E149-12

# PRIMEQUEST 1000 シリーズ ServerView Suite 留意事項一覧

2011 年 10 月 14 日  
富士通株式会社

FUJITSU

# ServerView Suite 留意事項一覧

## 1. ServerView Suite V10.10.04 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager の留意事項

(1) マニュアル誤記を訂正します。

「ServerView Operations Manager V4.92 Installation under Linux」の「3.3.1 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール」の手順4を訂正します。

|   |   |
|---|---|
| 誤 | 4. 次のコマンドで、Linux 用パッケージを展開します。<br># sh jre-<version>-linux-i586-rpm.bin   |
| 正 | 4. 以下の Linux パッケージを DVD から任意のディレクトリにコピーし、コピー先のディレクトリで展開します。<br># cp jre-<version>-linux-i586-rpm.bin /任意のディレクトリ/<br># cd /任意のディレクトリ/<br># sh jre-<version>-linux-i586-rpm.bin |

誤手順を実施した場合、以下の空きスペースがない旨のメッセージが表示され、インストールできません。

You will need at least 71700 kBytes of Disk Free  
Please free up the required Disk Space and try again

(2) 「外部記憶装置」の画面から「デバイスビュー」を表示すると、文字化けが発生する場合があります。ブラウザのエンコードを以下の設定にしてください。

- ・自動選択：オフ
- ・シフト JIS：オン

(3) [パーティションデータ] 画面の [システム] メニューより監視対象のシステム情報を表示した場合、CPU 数が実装数の2倍に表示されます。

(4) 監視対象サーバの [サーバのプロパティ]-[サーバのアドレス] 画面において接続テストボタン押して接続テストを実行すると、失敗する場合があります。[サーバリスト] 画面から監視対象サーバを右クリックして、接続テストを実施してください。

(5) ASR&R 画面において、登録したユーザーID で LOGIN できず、Watchdog 設定ができません。以下の手順で設定してください。

- ① [管理者設定]-[サーバの設定] をクリックします。
- ② [サーバリスト] タブから該当のパーティションを選択します。
- ③ ユーザー名/パスワードを入力し、[OK] ボタンを押下します。
- ④ [設定] タブから実施したい Watchdog のメニューを選択し、Watchdog の設定を行います。

(6) Linux OS において、OS の言語を日本語と設定している監視対象 (Linux) に対してパーティションデータ画面の [システム] メニューより [オペレーティングシステム] 画面を見ると、OS の言語が English と表示されます。

(7) サーバリストに登録したサーバ名に "#" が含まれる場合、パーティションの電源 ON/OFF 制御が行えません。サーバ名に "#" を含まないように指定してください。

(8) パーティションの RTC の時刻がずれた状態で OS 起動し、その後、NTP サーバで時刻同期された場合、SVOM の [システム情報]-[稼働時間] の値が正しく表示されない場合があります。この場合、該当するパーティションの ServerView Agents を再起動することで、正しい稼働時間が表示できるようになります。

ServerView Agents の再起動方法

Linux : ① ServerView Agents 停止 # srvmagt stop  
② ServerView Agents 開始 # srvmagt start

Windows : 再起動ツール「Restart ServerView Base Services」により再起動します。

- ① [スタート] ボタン→ [すべてのプログラム]→ [Fujitsu ServerView Suite]→ [Agents]→ [Diagnostic Tools]→ [Restart ServerView Base Services] の順にクリックします。  
[Restart ServerView Agents] 画面が表示されます。
- ② [Search for management hardware] を有効にして、[Restart]をクリックします。
- ③ 再起動が完了すると [Restart Services completed successfully!] と表示されますので、[Exit] をクリックします。

(9) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意ください。

サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)

(10) SVOM の画面を表示した時に、デジタル署名の有効期限が切れている旨の警告メッセージが表示されることがあります。この警告メッセージが表示されても Java Application の動作には問題はありませんので、[実行] ボタンをクリックしてください。SVOM の画面を表示するたびにこの警告メッセージが表示されるのを回避したい場合は、[この発行者からのコンテンツを常に信頼します] チェックボックスをオンにして [実行] ボタンをクリックしてください。

(11) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

(12) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。

MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

### ■ServerView Agents の留意事項

(1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]

(2) Windows OS において、シャットダウン時に以下のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありませんので無視してください。

-SWITCH: TIMEOUT - extension module EM\_IPMI2 did not stop within 60 seconds  
-ServerView Server Control サービスは、プレシャットダウンコントロールを受け取った後に正しくシャットダウンされませんでした。

(3) マニュアル誤記を訂正します。

「ServerView Operations Manager V4.92 Installation ServerView Agents for Linux」の「3.3 rpm コマンドを使ったインストール」の以下の手順を訂正します。

|   |   |
|---|---|
| 誤 | >ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br>mount -t iso9660 -o loop /dev/cdrom /mnt/cdrom |
| 正 | >ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br>mount -t UDF /dev/cdrom /mnt/cdrom             |

(4) マニュアル誤記を訂正します。

「ServerView Operations Manager V4.92 Installation ServerView Agents for Linux」の「3.5 簡易設定ツール (editconf.sh) の実行」の以下の手順を訂正します。

|   |   |
|---|---|
| 誤 | <p>2. ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br/> <code>mount -t iso9660 -o loop /dev/cdrom /mnt/cdrom</code></p> <p>4. 簡易設定ツール (editconf.sh) を実行します。<br/>         - OS が Red Hat の場合<br/>             <code># ./editconf.sh --snmp</code><br/>         - OS が VMware の場合<br/>             <code># ./editconf.sh -vmware</code></p>     |
| 正 | <p>2. ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br/> <code>mount -t UDF /dev/cdrom /mnt/cdrom</code></p> <p>4. 簡易設定ツール (editconf.sh) を実行します。<br/>         - OS が Red Hat の場合<br/>             <code># /bin/bash editconf.sh --snmp</code><br/>         - OS が VMware の場合<br/>             <code># /bin/bash editconf.sh -vmware</code></p> |

(5) Windows において、OS 起動時に以下のアプリケーションエラーが発生する場合があります。

障害が発生しているアプリケーション名: vme\_srv.exe、バージョン: 4.92.xx.x、タイム スタンプ: 0xnntnnnnnn  
 障害が発生しているモジュール名: vme\_srv.exe、バージョン: 4.92.xx.x、タイム スタンプ: 0xnntnnnnnn  
 例外コード: 0xc000008f  
 障害オフセット: 0x000335af

この場合、[管理ツール] -[サービス] より [ServerView Virtualization Management Agent] を再起動してください。

(6) Linux の Agent をインストール時、簡易設定ツール (editconf.sh) を実行すると、/etc/snmp/snmpd.conf の PSA の設定が無効になります。以下の手順に従い、設定の復旧を実施してください。

① 以下の行 (←の行) の「#sv#」を削除します。

<修正前>

```
## Setup for FJSVpsa Please do not remove the following lines ##
#sv#com2sec psalocal localhost psaprivate ←
#sv#group PsarWGroup v1 psalocal ←
#sv#view fujitsu included .1.3.6.1.4.1.211.1.31.1 ff.c0 ←
#sv#access PsarWGroup "" any noauth exact fujitsu fujitsu none ←
rouser fjsvpsa
master agentx
agentxTimeout 360
agentxRetries 0
sysobjectid .1.3.6.1.4.1.211.1.31.1.2.100.2.0
## End of Setup for FJSVpsa ##
```

<修正後>

```
## Setup for FJSVpsa Please do not remove the following lines ##
com2sec psalocal localhost psaprivate
group PsaRWGroup v1 psalocal
view fujitsu included .1.3.6.1.4.1.211.1.31.1 ff.c0
access PsaRWGroup "" any noauth exact fujitsu fujitsu none
rouser fjsvpsa
master agentx
agentxTimeout 360
agentxRetries 0
sysobjectid .1.3.6.1.4.1.211.1.31.1.2.100.2.0
## End of Setup for FJSVpsa ##
```

② snmpd.conf の変更を反映させるため、snmpd を再起動します。  
/sbin/service snmpd restart

③ 設定を反映させるため、PSA を再起動します。  
/sbin/service y30FJSVpsa stop  
/sbin/service y30FJSVpsa start

(7) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

## ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った際、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID: 51

種類: 警告

ソース: Disk

説明: ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。

→記録されている場合は、②へ。

② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。

- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

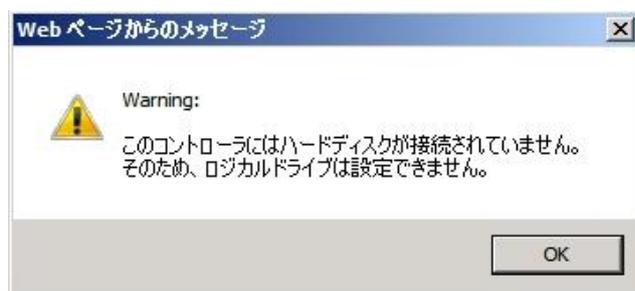
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

## ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) ServerView Operations Manager (SVOM) を SVIM で自動インストールできません。  
PRIMEQUEST 1000 シリーズでは SVOM は SVIM でインストールすることはできません。SVIM を利用して OS、ドライバおよび添付ソフトをインストールした後に、必要に応じて「ServerView Operations Manager 4.92 Quick Installation (Windows)」または「ServerView Operations Manager 4.92 Quick Installation (Linux)」を参照して SVOM をインストールしてください。
- (2) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (3) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



- (4) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。  
RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすことになりますのでご注意ください。
- (5) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
- ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。
- (6) RHEL5.3 のインストールを行うには SVS V10.10.04 をお使いください。

(7) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (Xen カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のように選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)

- インストールモードの選択

① [ガイドモード] を選択します。

- パッケージ選択手順

① [インストール番号:] を入力します。

② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。

③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。

- Native Kernel

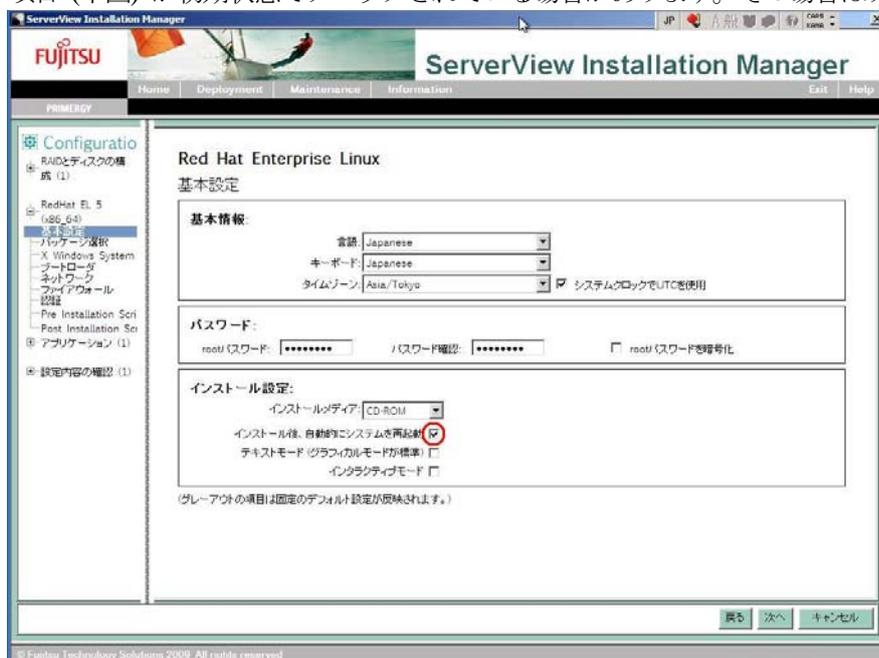
- ブートローダ手順

① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。

② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。

(8) ガイドモードで RHEL5 をインストールする場合、以下の注意事項があります。

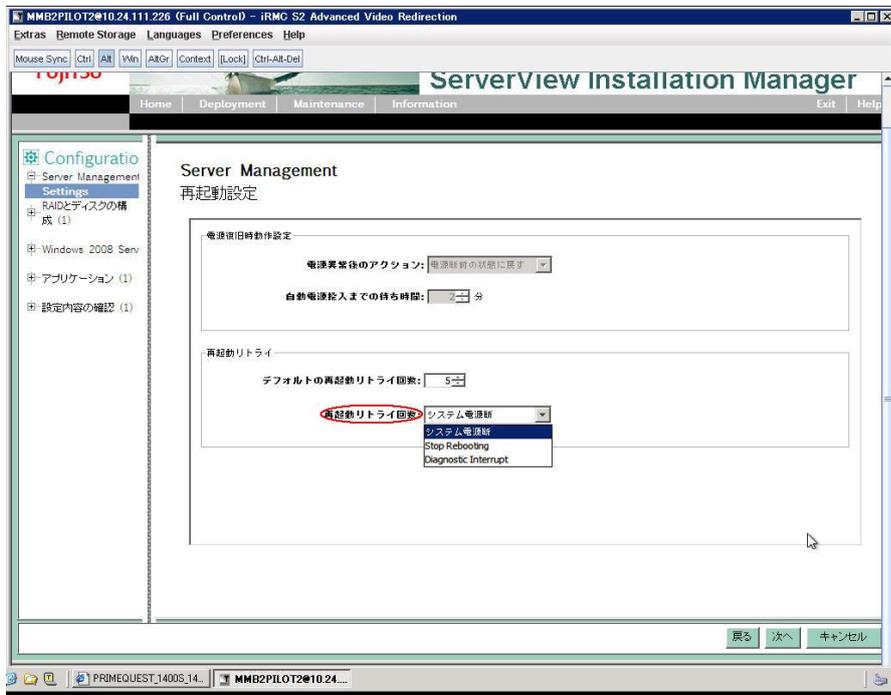
ガイドモードで RHEL5 をインストールする場合は、基本設定画面の「インストール時、自動的にシステムを再起動」項目 (下図) が初期状態でチェックされている場合があります。その場合はチェックを外してください。



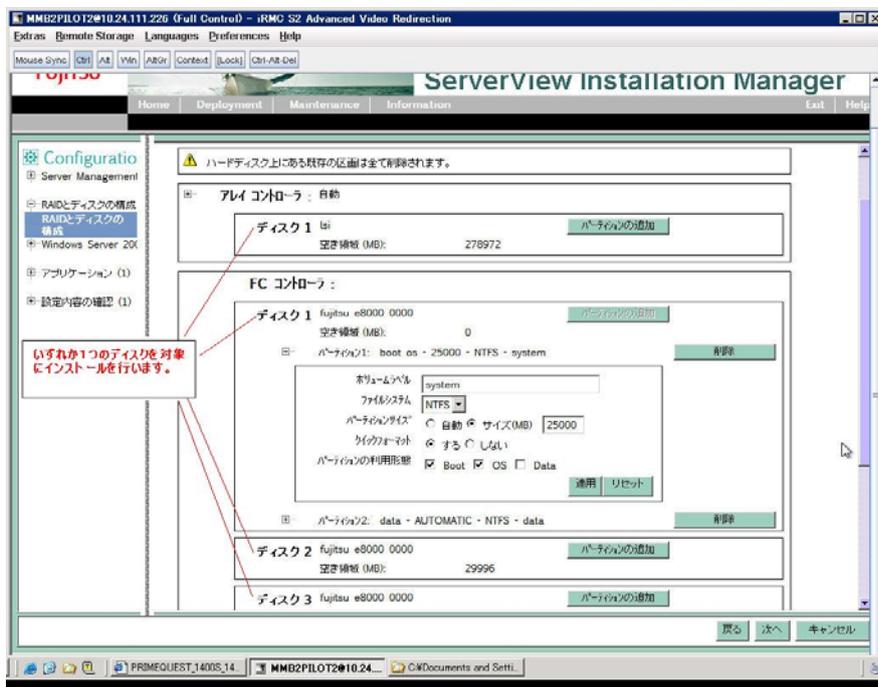
チェックされたままインストールを実行すると、RHEL5 ディスクをドライブから取り出す際の確認画面が表示されなくなります。

(9) ガイドモードで再起動設定を行う場合、以下の注意事項があります。

再起動設定はガイドモードで「サーバ管理の設定を行う」をチェックした際に設定できます。再起動設定画面に表示される「再起動リトライ回数」項目は「再起動リトライ回数超過時のアクション」の誤りです。



- (10) ガイドモードでRAIDとディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
 複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (11) PCIカードを8枚以上接続する場合は、I/O空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- ・ SASU/SASRUにI/O空間割り当てを行ってください。
  - ・ SAN環境にインストールする場合は、SAN環境を接続しているFCカードにI/O空間割り当てを行ってください。

I/O空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110)の「5.5 Device Managerメニュー」を参照してください。

- (12) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。  
本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。
- (13) マルチパス環境での動作をサポートしていません。  
マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。  
マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。
- (14) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (15) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (16) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用ください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (17) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (18) DSNAPreadme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JPTXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 2. ServerView Suite V10.10.05 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager の留意事項

(1) マニュアル誤記を訂正します。

「ServerView Operations Manager V4.92 Installation under Linux」の「3.3.1 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール」の手順4を訂正します。

|   |   |
|---|---|
| 誤 | 4. 次のコマンドで、Linux 用パッケージを展開します。<br># sh jre-<version>-linux-i586-rpm.bin   |
| 正 | 4. 以下の Linux パッケージを DVD から任意のディレクトリにコピーし、コピー先のディレクトリで展開します。<br># cp jre-<version>-linux-i586-rpm.bin /任意のディレクトリ/<br># cd /任意のディレクトリ/<br># sh jre-<version>-linux-i586-rpm.bin |

誤手順を実施した場合、以下の空きスペースがない旨のメッセージが表示され、インストールできません。

You will need at least 71700 kBytes of Disk Free  
Please free up the required Disk Space and try again

(2) 「外部記憶装置」の画面から「デバイスビュー」を表示すると、文字化けが発生する場合があります。ブラウザのエンコードを以下の設定にしてください。

- ・自動選択：オフ
- ・シフト JIS：オン

(3) [パーティションデータ] 画面の [システム] メニューより監視対象のシステム情報を表示した場合、CPU 数が実装数の2倍に表示されます。

(4) 監視対象サーバの [サーバのプロパティ]-[サーバのアドレス] 画面において接続テストボタン押して接続テストを実行すると、失敗する場合があります。[サーバリスト] 画面から監視対象サーバを右クリックして、接続テストを実施してください。

(5) ASR&R 画面において、登録したユーザーIDでLOGINできず、Watchdog設定ができません。以下の手順で設定してください。

- ① [管理者設定]-[サーバの設定] をクリックします。
- ② [サーバリスト] タブから該当のパーティションを選択します。
- ③ ユーザー名/パスワードを入力し、[OK] ボタンを押下します。
- ④ [設定] タブから実施したい Watchdog のメニューを選択し、Watchdog の設定を行います。

(6) Linux OS において、OS の言語を日本語と設定している監視対象 (Linux) に対してパーティションデータ画面の [システム] メニューより [オペレーティングシステム] 画面を見ると、OS の言語が English と表示されます。

(7) サーバリストに登録したサーバ名に "#" が含まれる場合、パーティションの電源 ON/OFF 制御が行えません。サーバ名に "#" を含まないように指定してください。

(8) パーティションの RTC の時刻がずれた状態で OS 起動し、その後、NTP サーバで時刻同期された場合、SVOM の [システム情報]-[稼働時間] の値が正しく表示されない場合があります。この場合、該当するパーティションの ServerView Agents を再起動することで、正しい稼働時間が表示できるようになります。

ServerView Agents の再起動方法

- Linux :   ① ServerView Agents 停止       # srvmagt stop  
          ② ServerView Agents 開始       # srvmagt start

Windows : 再起動ツール「Restart ServerView Base Services」により再起動します。

- ① [スタート] ボタン→ [すべてのプログラム]→ [Fujitsu ServerView Suite]→ [Agents]→ [Diagnostic Tools]→ [Restart ServerView Base Services] の順にクリックします。  
[Restart ServerView Agents] 画面が表示されます。
- ② [Search for management hardware] を有効にして、[Restart]をクリックします。
- ③ 再起動が完了すると [Restart Services completed successfully!] と表示されますので、[Exit] をクリックします。

(9) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意ください。

サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)

(10) SVOM の画面を表示した時に、デジタル署名の有効期限が切れている旨の警告メッセージが表示されることがあります。この警告メッセージが表示されても Java Application の動作には問題はありませんので、[実行] ボタンをクリックしてください。SVOM の画面を表示するたびにこの警告メッセージが表示されるのを回避したい場合は、[この発行者からのコンテンツを常に信頼します] チェックボックスをオンにして [実行] ボタンをクリックしてください。

(11) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

(12) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。

MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス

1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー

■[SNMP Trap] 画面

## ■ServerView Agents の留意事項

(1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]

(2) Windows OS において、シャットダウン時に以下のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありませんので無視してください。

-SWITCH: TIMEOUT - extension module EM\_IPMI2 did not stop within 60 seconds  
-ServerView Server Control サービスは、プレシャットダウンコントロールを受け取った後に正しくシャットダウンされませんでした。

(3) マニュアル誤記を訂正します。

「ServerView Operations Manager V4.92 Installation ServerView Agents for Linux」の「3.3 rpm コマンドを使ったインストール」の以下の手順を訂正します。

|   |   |
|---|---|
| 誤 | >ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br>mount -t iso9660 -o loop /dev/cdrom /mnt/cdrom |
| 正 | >ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br>mount -t UDF /dev/cdrom /mnt/cdrom             |

- (4) マニュアル誤記を訂正します。

「ServerView Operations Manager V4.92 Installation ServerView Agents for Linux」の「3.5 簡易設定ツール (editconf.sh) の実行」の以下の手順を訂正します。

|   |   |
|---|---|
| 誤 | <p>2. ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br/> <code>mount -t iso9660 -o loop /dev/cdrom /mnt/cdrom</code></p> <p>4. 簡易設定ツール (editconf.sh) を実行します。<br/>         - OS が Red Hat の場合<br/>             <code># ./editconf.sh --snmp</code><br/>         - OS が VMware の場合<br/>             <code># ./editconf.sh -vmware</code></p>     |
| 正 | <p>2. ServerView Suite DVD 1 をマウントします。<br/> <code>mount -t UDF /dev/cdrom /mnt/cdrom</code></p> <p>4. 簡易設定ツール (editconf.sh) を実行します。<br/>         - OS が Red Hat の場合<br/>             <code># /bin/bash editconf.sh --snmp</code><br/>         - OS が VMware の場合<br/>             <code># /bin/bash editconf.sh -vmware</code></p> |

- (5) Windows において、OS 起動時に以下のアプリケーションエラーが発生する場合があります。

障害が発生しているアプリケーション名: vme\_srv.exe、バージョン: 4.92.xx.x、タイム スタンプ: 0xnntnnnnnn  
 障害が発生しているモジュール名: vme\_srv.exe、バージョン: 4.92.xx.x、タイム スタンプ: 0xnntnnnnnn  
 例外コード: 0xc000008f  
 障害オフセット: 0x000335af

この場合、[管理ツール] -[サービス] より [ServerView Virtualization Management Agent] を再起動してください。

- (6) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った際、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID:51

種類: 警告

ソース: Disk

説明: ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

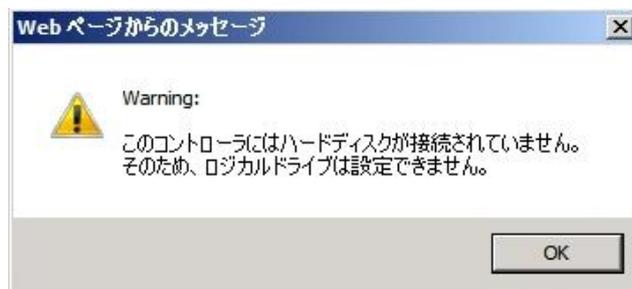
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

### ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

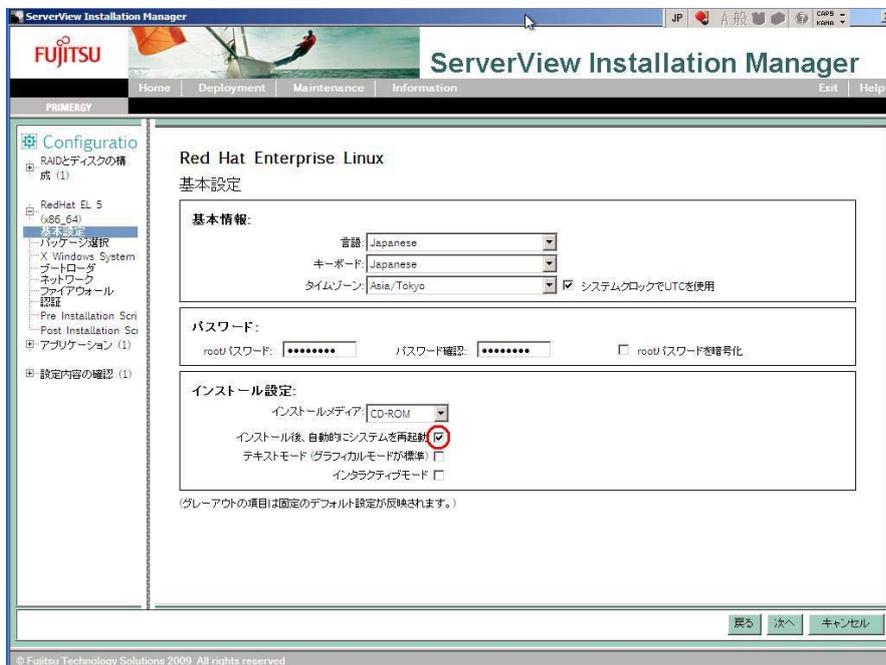
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。  
RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



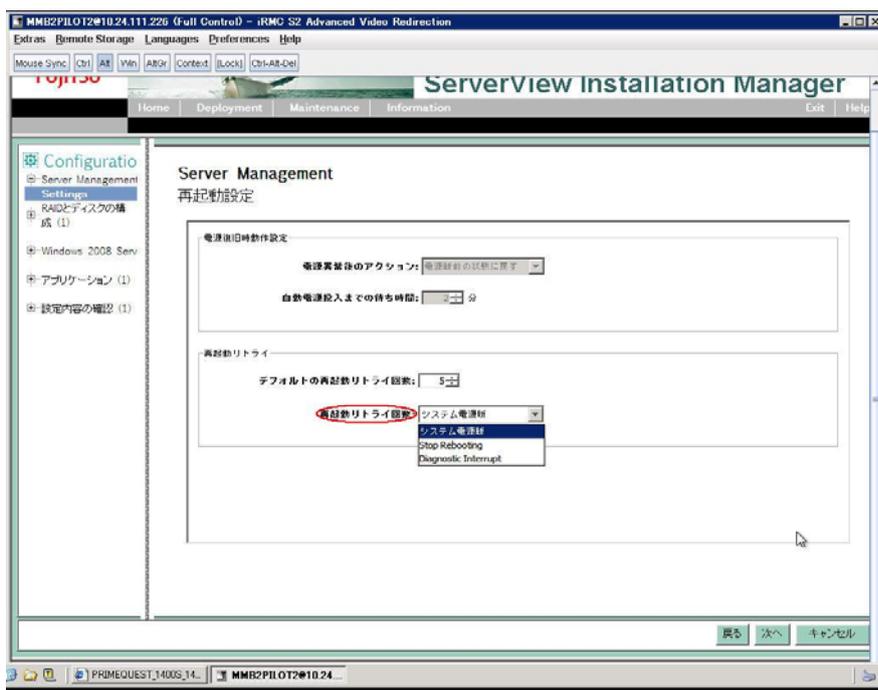
- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。  
RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすこととなりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。

- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには SVS V10.10.04 をお使いください。
- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (Xen カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のよう  
に選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)
- インストールモードの選択
    - ① [ガイドモード] を選択します。
  - パッケージ選択手順
- RHEL5.4 の場合
- ① [インストール番号:] を入力します。
  - ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
  - ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。
    - Native Kernel
- RHEL5.5 の場合
- ① [インストール番号:] を入力します。
  - ② [個別パッケージ:] の [追加パッケージ] に次の4項目を1つずつ入力し、[追加] ボタンをクリックします。
    - @xen
    - kernel-xen
    - kernel-xen-devel
    - kernel
  - ブートローダ手順
    - ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
    - ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) ガイドモードで RHEL5 をインストールする場合、以下の注意事項があります。  
ガイドモードで RHEL5 をインストールする場合は、基本設定画面の「インストール時、自動的にシステムを再起動」  
項目 (下図) が初期状態でチェックされている場合があります。その場合はチェックを外してください。

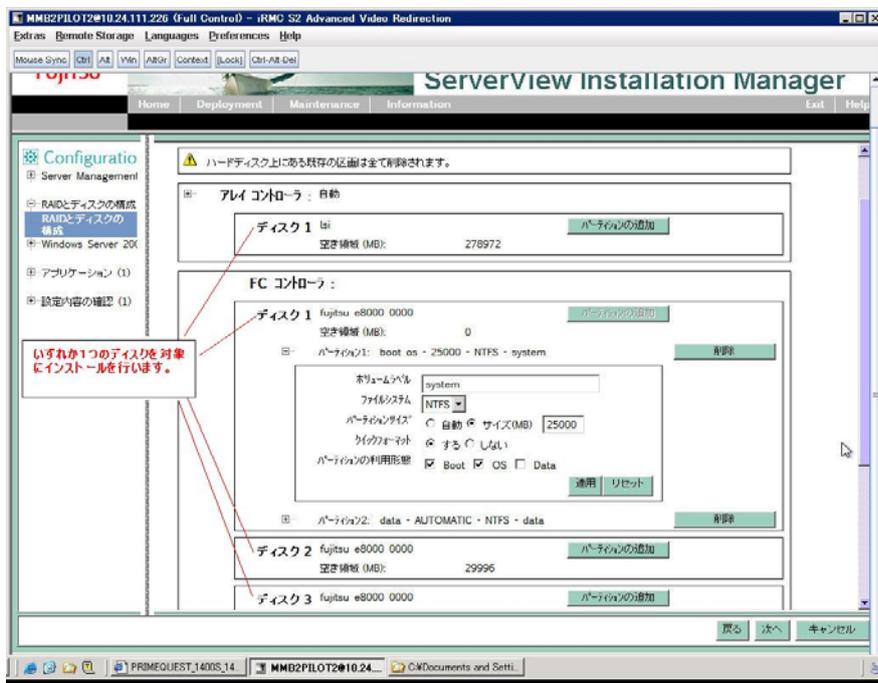


チェックされたままインストールを実行すると、RHEL5 ディスクをドライブから取り出す際の確認画面が表示されなくなります。

- (8) ガイドモードで再起動設定を行う場合、以下の注意事項があります。  
再起動設定はガイドモードで「サーバ管理の設定を行う」をチェックした際に設定できます。再起動設定画面に表示される「再起動リトライ回数」項目は「再起動リトライ回数超過時のアクション」の誤りです。



- (9) ガイドモードでRAIDとディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (10) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。

- ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

- (11) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。  
本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。
- (12) マルチパス環境での動作をサポートしていません。  
マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。  
マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。
- (13) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面)で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (14) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (15) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (16) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (17) DSNAP readme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JP.TXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (2) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (2) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

### 3. ServerView Suite V10.10.07 に関する留意事項

#### ■ServerView Operations Manager の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

```
It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)
```

- (2) OS が Linux の場合、システム>リソースのメニュー上のメモリのタブで 10G-LAN カードの情報が表示されません。
- (3) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (4) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

#### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

```
Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]
```

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

#### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った際、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明： ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

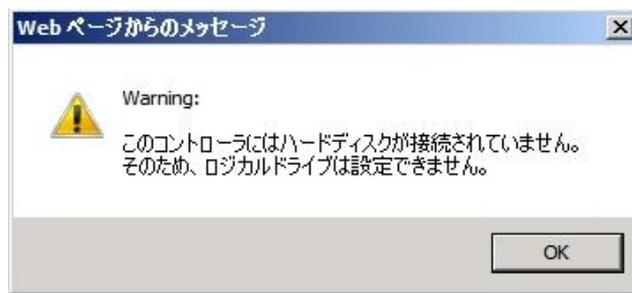
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

## ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

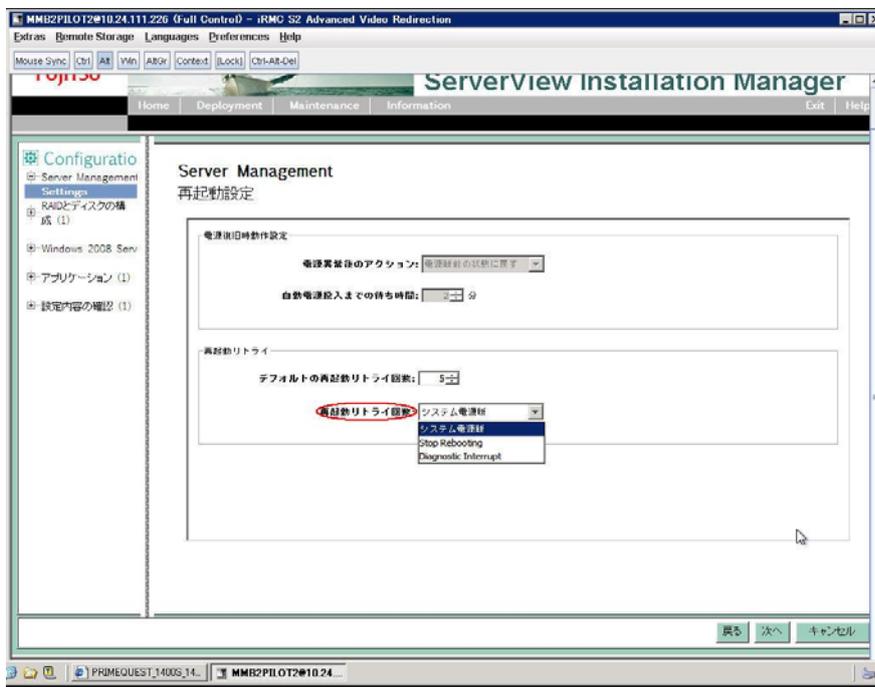
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。

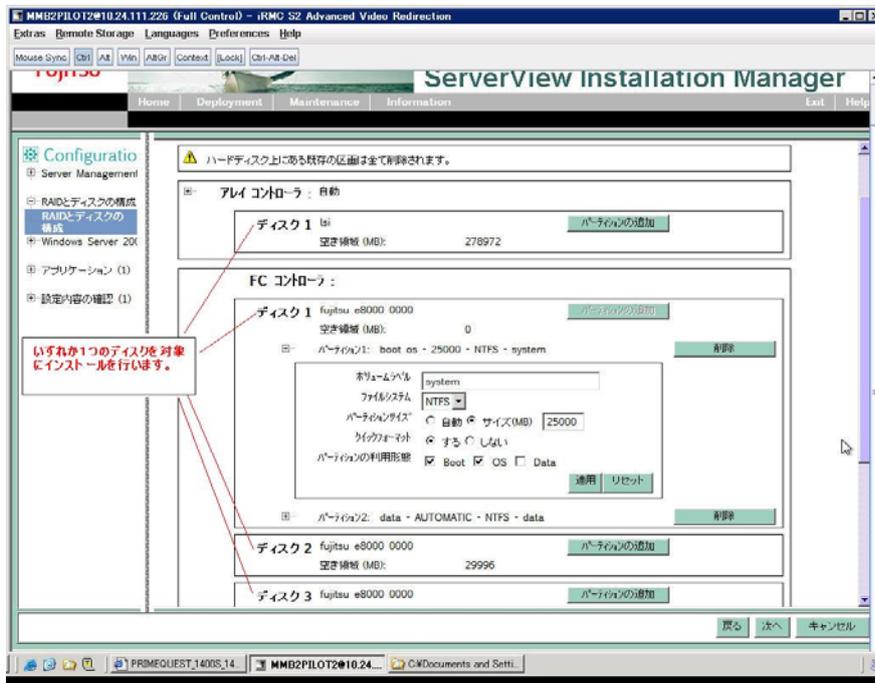


- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすことになりま  
すのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。
- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。

- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (Xen カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のように選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)
- インストールモードの選択
    - ① [ガイドモード] を選択します。
  - パッケージ選択手順
    - ① [インストール番号:] を入力します。
    - ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
    - ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。
      - Native Kernel
  - ブートローダ手順
    - ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
    - ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) ガイドモードで再起動設定を行う場合、以下の注意事項があります。  
再起動設定はガイドモードで「サーバ管理の設定を行う」をチェックした際に設定できます。再起動設定画面に表示される「再起動リトライ回数」項目は「再起動リトライ回数超過時のアクション」の誤りです。



- (8) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (9) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

- (10) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。  
Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。  
当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

- (11) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。  
本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

- (12) マルチパス環境での動作をサポートしていません。  
マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。  
マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

- (13) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(またはUEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (14) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (15) Red Hat Enterprise Linux ではRAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動でLVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについてはServerView Suite マニュアルの7Linux およびVMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (16) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックにUTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックにUTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックにUTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (17) DSNAP readme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JP.TXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (3) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (3) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 4. ServerView Suite V10.10.08 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)

- (2) OS が Linux の場合、システム>リソースのメニュー上のメモリのタブで 10G-LAN カードの情報が表示されません。
- (3) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (4) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明： ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

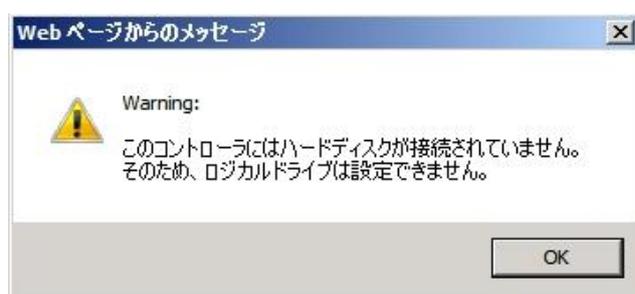
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

## ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

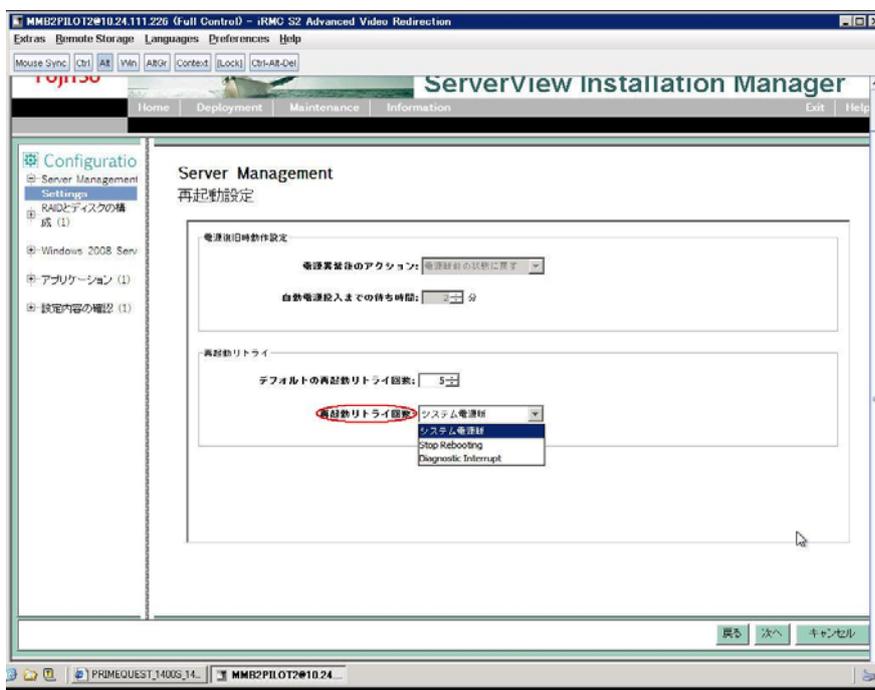
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。

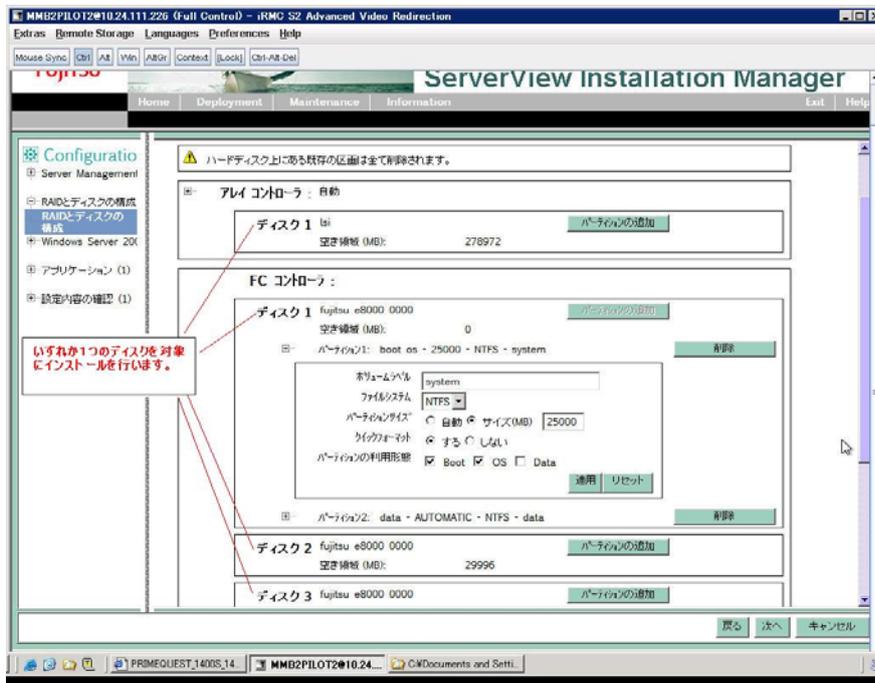


- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすことになりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。
- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。

- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のよう  
 に選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)
- インストールモードの選択
    - ① [ガイドモード] を選択します。
  - パッケージ選択手順
    - ① [インストール番号:] を入力します。
    - ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
    - ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。
      - Native Kernel
  - ブートローダ手順
    - ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
    - ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) ETERNUS JX40 にインストールする場合、正しく接続されているにも関わらず「ようこそ」画面で 0GB と表示されることがあります。その場合は SVIM のガイドモードでは RAID レベル選択ができません。ガイドモードでインストールするには WebBIOS を使用して RAID 構築を行ってから実施してください。または SVIM のクイックモードでインストールしてください。  
 WebBIOS の使用方法については『MegaRAID SAS ユーザーズガイド』(B7FY2751) を参照してください。
- (8) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。
- (9) ガイドモードで再起動設定を行う場合、以下の注意事項があります。  
 再起動設定はガイドモードで「サーバ管理の設定を行う」をチェックした際に設定できます。再起動設定画面に表示される「再起動リトライ回数」項目は「再起動リトライ回数超過時のアクション」の誤りです。



- (10) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
 複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



(11) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。

- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(12) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(13) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。

(14) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

- (15) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。  
本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。
- (16) マルチパス環境での動作をサポートしていません。  
マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。  
マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。
- (17) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面)で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (18) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。

- (19) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (20) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (21) DSNAPreadme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JP.TXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (4) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (4) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 5. ServerView Suite V10.10.09 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

```
It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)
```

- (2) OS が Linux の場合、システム>リソースのメニュー上のメモリのタブで 10G-LAN カードの情報が表示されません。
- (3) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (4) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

```
Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]
```

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明： ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

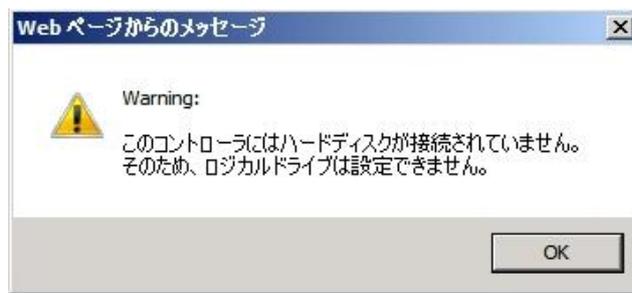
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

## ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

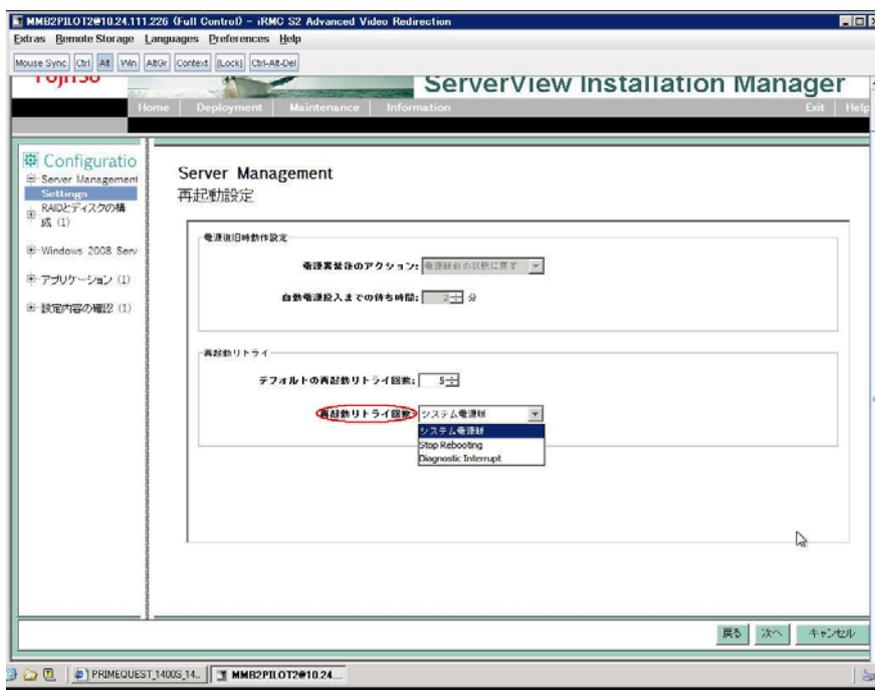
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。

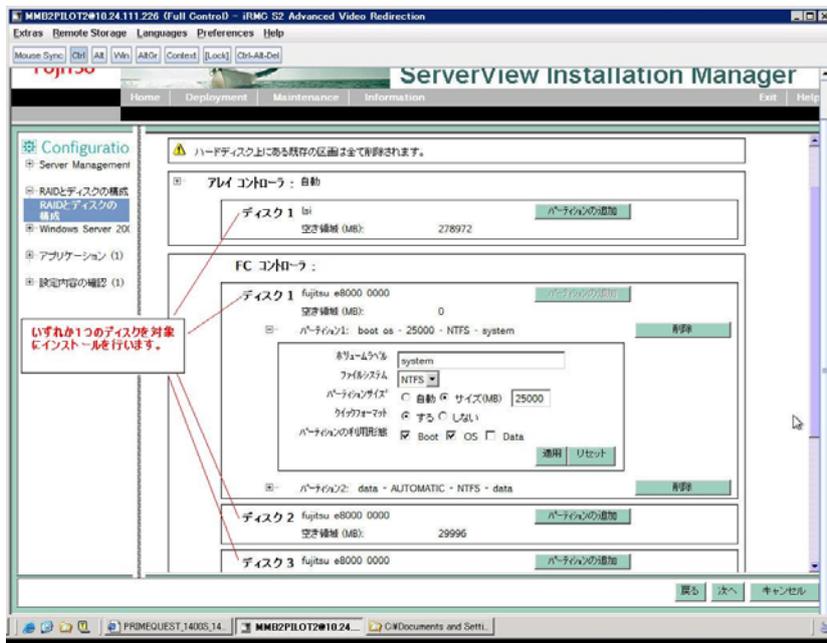


- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすことになりま  
すのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。
- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。

- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のよう  
 に選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)
- インストールモードの選択
    - ① [ガイドモード] を選択します。
  - パッケージ選択手順
    - ① [インストール番号:] を入力します。
    - ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
    - ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。
      - Native Kernel
  - ブートローダ手順
    - ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
    - ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) ETERNUS JX40 にインストールする場合、正しく接続されているにも関わらず「ようこそ」画面で 0GB と表示されることがあります。その場合は SVIM のガイドモードでは RAID レベル選択ができません。ガイドモードでインストールするには WebBIOS を使用して RAID 構築を行ってから実施してください。または SVIM のクイックモードでインストールしてください。  
 WebBIOS の使用方法については『MegaRAID SAS ユーザーズガイド』(B7FY2751) を参照してください。
- (8) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。
- (9) ガイドモードで再起動設定を行う場合、以下の注意事項があります。  
 再起動設定はガイドモードで「サーバ管理の設定を行う」をチェックした際に設定できます。再起動設定画面に表示される「再起動リトライ回数」項目は「再起動リトライ回数超過時のアクション」の誤りです。



- (10) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
 複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (11) PCI カードを 8 枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

- (12) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。  
Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。  
当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行なわない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

- (13) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。
- (14) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

(15) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(16) マルチパス環境での動作をサポートしていません。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

(17) SVS V10.10.09 では、以下の追加作業が必要です。

SVIM によるインストール作業終了後、「RAS 支援サービス」を手動でインストールしてください。

[Windows の場合]

「RAS 支援サービス for Windows V5.1 L13-02 ユーザーズガイド」の「2 RAS 支援サービスのインストール」の手順に従い、RAS 支援サービスをインストールしてください。

DVD ドライブに「ServerView Suite DVD 1」を挿入し、以下の pdf ファイルを参照してください。

<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥RASAssist¥Windows¥WinRAS\_V51L13-02.pdf

[RHEL の場合]

「RAS 支援サービス for Linux V3.1.2-03 ユーザーズガイド」の「2 RAS 支援サービスのインストール」の手順に従い、RAS 支援サービスをインストールしてください。

DVD ドライブに「ServerView Suite DVD 1」を挿入し、以下の pdf ファイルを参照してください。

<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥RASAssist¥Linux¥LinuxRAS\_v312-03.pdf

- (18) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(またはUEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (19) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (20) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (21) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (22) DSNAP readme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JPTXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 6. ServerView Suite V10.10.10 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)

- (2) OS が Linux の場合、システム>リソースのメニュー上のメモリのタブで 10G-LAN カードの情報が表示されません。
- (3) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (4) SVOM 5.0 版を使用する場合、Internet Explorer(IE)で画面を参照すると、一部表示できない場合がありますので、SVOM 5.0 版を使用する場合は、ブラウザとして Firefox を使用してください。
- (5) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID: 51

種類：警告  
ソース：Disk

説明：ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

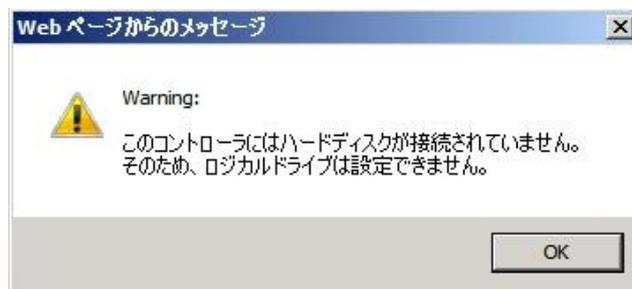
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

### ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

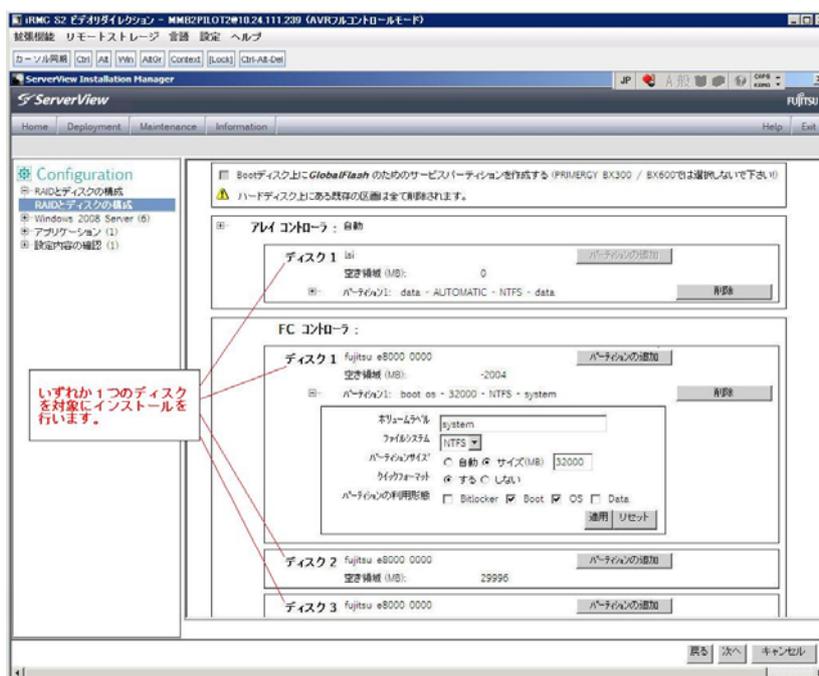
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。  
RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。  
RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすこととなりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。

- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。
- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のよう  
 ① [インストール番号:] を入力します。  
 ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。  
 ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。  
 - Native Kernel  
 - ブートローダ手順  
 ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。  
 ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。
- (8) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
 複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (9) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(10) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(11) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。

(12) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

(13) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(14) マルチパス環境での動作をサポートしていません。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

(15) 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に以下メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(16) Red Hat Enterprise Linux 5.5 では OS 修正パッケージの適用を推奨します

SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページからダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html>

OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]

SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザーズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

(17) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

(18) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です。

5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。

- (19) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (20) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (21) DSNAPreadme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JP.TXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 7. ServerView Suite V10.10.12 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager(SVOM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

```
It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)
```

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (3) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

- (4) ServerView Suite DVD1 に含まれる SVOM は、Red Hat Enterprise Linux 6(RHEL6)には対応していません。  
RHEL6 インストール時には、SVOM はインストールされません。

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

```
Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]
```

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明： ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

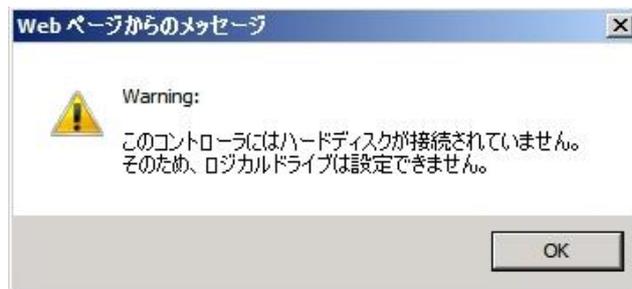
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

## ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。  
RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。  
RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすこととなりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。
- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。
- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順 6 では以下のよう  
に選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)
  - インストールモードの選択

① [ガイドモード] を選択します。

- パッケージ選択手順

① [インストール番号:] を入力します。

② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。

③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。

- Native Kernel

- ブートローダ手順

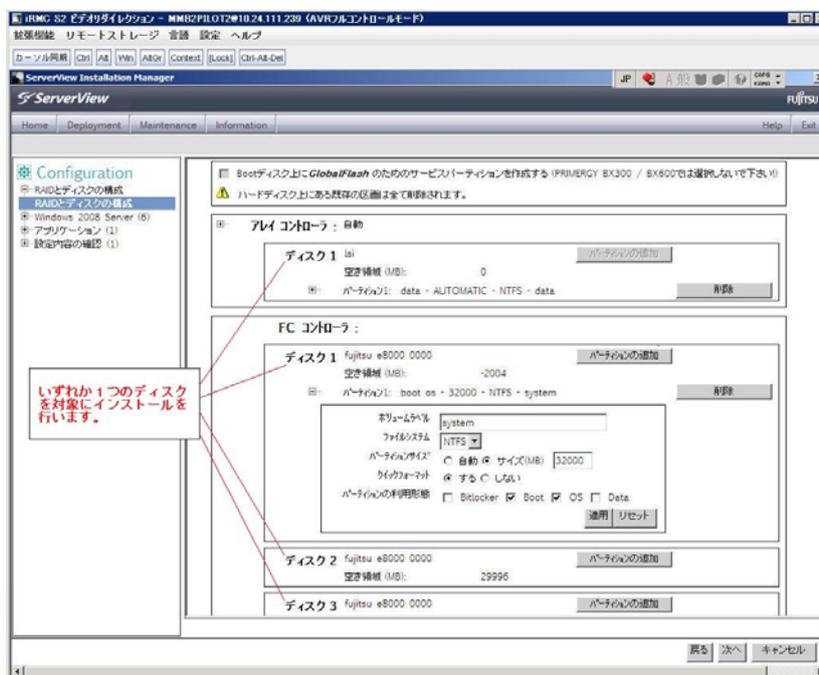
① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。

② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。

(7) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。

(8) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。

複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



(9) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。

- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(10) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(11) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。

(12) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

(13) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(14) マルチパス環境での動作をサポートしていません。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

(15) 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に以下メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(16) SVIM を使用して Windows OS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください。ボリュームラベル名を入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(17) Windows の OS ディスクパーティションサイズの推奨値は、32GB 以上です。SVS 10.10.12 以降では OS のディスクパーティションが 32GB 未満の場合に、以下の警告を表示します。「警告：OS のパーティションサイズが小さすぎます。」

既にご使用頂いている環境については、OS ディスクパーティションサイズを変更する必要はありません。

(18) Red Hat Enterprise Linux ではネットワーク設定は OS インストール後に実施してください。

(19) Red Hat Enterprise Linux ではパスワードにシングルクォーテーションを使用できません。パスワードにシングルクォーテーションを含めたい場合は、「root パスワードの暗号化」を選択してください。

(20) Red Hat Enterprise Linux をインストールするさいに、余分なディスクパーティションが作成されることがあります。ServerView Installation Manager で指定したディスクパーティション構成の他に、ファイルシステムタイプが『fat32』のディスクパーティションが作成されることがあります。当該ディスクパーティションは、削除しても問題ありません。

(21) Red Hat Enterprise Linux では「プライマリパーティションにする」を選択しないでください。Red Hat Enterprise Linux のインストールを行う場合、RAID とディスクの構成画面のディスクパーティション設定において、「プライマリパーティションにする」は選択しないでください。選択してインストールを行った場合、インストールが失敗することがあります。

(22) Red Hat Enterprise Linux 5.5 では OS 修正パッケージの適用を推奨します

SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページからダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html>

OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]

SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザーズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

(23) Red Hat Enterprise Linux 6 構築時に、リモートストレージ機能を使用する場合は、内蔵 DVD ドライブをインストール対象のパーティションに割り当てないでください

内蔵 DVD ドライブを対象のパーティションに割り当てた状態で、リモートストレージ機能を使用すると、富士通 Linux サポートパッケージ(FJ-LSP)の適用ができません。内蔵 DVD をパーティションから切り離して実行してください。

(24) Red Hat Enterprise Linux 6 ではファイルシステムは ext3 をご使用ください

Red Hat Enterprise Linux6 のインストールを行う場合、swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプは『ext3』を使用することを強く推奨します。

swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプを『ext3』に設定するには、ガイドモードを使用して、ディスクパーティション作成画面の「ファイルシステムタイプ」選択メニューで『ext3』を選択してください。なお、クイックモードでは、『ext4』が自動選択されます。『ext3』は設定できません。

(25) Red Hat Enterprise Linux 6 ではパッケージ選択において、「デフォルトインストール」を選択してください

Red Hat Enterprise Linux 6 のパッケージ選択画面において、デフォルトインストール以外を選択するとインストールが正しく行われない場合があります。

(26) Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)をご使用の際の追加作業について

Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)をご使用の際は、SVIM によるインストール作業終了後、後述のとおり PRIMEQUEST Server Agent (PSA)パッケージを手動でインストールしてください。

#### 1. PRIMEQUEST Server Agent の必須パッケージの適用

[SupportDesk 契約済みの場合]

富士通 Linux サポートパッケージ(FJ-LSP)を適用してください。富士通 Linux サポートパッケージが適用されている場合、パッケージの適用作業は不要です。項 2 に進んでください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat Enterprise Linux 6 の OS 媒体から、以下の必須パッケージを適用してください。

net-snmp-libs-5.5-27.el6.i686.rpm

parted-2.1-10.el6.i686.rpm

##### ①net-snmp-libs-1:5.5-27.el6.i686.rpm の適用手順

```
# rpm -ivh bzip2-libs-1.0.5-6.1.el6.i686.rpm
```

```
# rpm -ivh ncurses-libs-5.7-3.20090208.el6.i686.rpm
```

```
# rpm -ivh libattr-2.4.44-4.el6.i686.rpm
```

```
# rpm -ivh libacl-2.2.49-4.el6.i686.rpm
```

```
# rpm -ivh nss-util-3.12.7-1.el6.i686.rpm
```

```
# rpm -ivh elfutils-libelf-0.148-1.el6.i686.rpm
# rpm -ivh readline-6.0-3.el6.i686.rpm
# rpm -ivh libcap-2.16-5.2.el6.i686.rpm
# rpm -ivh xz-libs-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.i686.rpm
# rpm -ivh sqlite-3.6.20-1.el6.i686.rpm
# rpm -ivh nspr-4.8.6-1.el6.i686.rpm
# rpm -ivh popt-1.13-7.el6.i686.rpm
# rpm -ivh lua-5.1.4-4.1.el6.i686.rpm
# rpm -ivh perl-libs-5.10.1-115.el6.i686.rpm
# rpm -ivh lm_sensors-libs-3.1.1-10.el6.i686.rpm
# rpm -ivh tcp_wrappers-libs-7.6-56.3.el6.i686.rpm
# rpm -ivh file-libs-5.04-5.el6.i686.rpm
# rpm -ivh nss-softokn-3.12.7-1.1.el6.i686.rpm
# rpm -ivh nss-3.12.7-2.el6.i686.rpm
# rpm -ivh rpm-libs-4.8.0-12.el6.i686.rpm
# rpm -ivh net-snmp-libs-5.5-27.el6.i686.rpm
```

## ②parted-2.1-10.el6.i686.rpm の適用

```
# rpm -ivh libsepol-2.0.41-3.el6.i686.rpm
# rpm -ivh libuuid-2.17.2-6.el6.i686.rpm
# rpm -ivh libudev-147-2.29.el6.i686.rpm
# rpm -ivh libblkid-2.17.2-6.el6.i686.rpm
# rpm -ivh device-mapper-libs-1.02.53-8.el6.i686.rpm
# rpm -ivh parted-2.1-10.el6.i686.rpm
```

## 2. PRIMEQUEST Server Agent パッケージの適用

以下の手順で PRIMEQUEST Server Agent (PSA) パッケージをインストールしてください。

```
# cd /tmp/PSA
# tar xvf FJSVpsa-RHEL6.tar.gz
# cd FJSVpsa
# sh ./INSTALL.sh
```

## 3. OS の再起動

RedHat Enterprise Linux 環境を再起動してください。

### (27) Red Hat Enterprise Linux 6 では SNMP 設定の変更作業を実施してください

SVIM を使用して、Red Hat Enterprise Linux 6 をインストールした環境において、/var/log/message に以下のような INFO レベルのログが多量に出力されます。

```
Jan 1 12:00:00 server0 snmpd[10274]: Connection from UDP: [127.0.0.1]:46573->[127.0.0.1]
```

/etc/snmp/snmpd.conf に、手動で dontLogTCPWrappersConnects yes を追加すると、ログ出力を抑えることができます。ファイルの修正後にサーバの再起動が必要です。

### snmpd.conf 記述例

```
### SVRA{
### uncomment the following line for SuSE distributions
# rwcommunity public default 1.3.6.1.4.1.231.2.49.1
### uncomment the following line for RedHat distributions and VMware
# view systemview included 1.3.6.1.4.1.231.2.49.1
```

```
### ]SVRA

#####

# Logging
#

dontLogTCPWrappersConnects yes
```

- (28) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(またはUEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (29) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (30) Red Hat Enterprise Linux ではRAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動でLVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについてはServerView Suite マニュアルの7Linux およびVMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (31) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックにUTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックにUTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックにUTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (32) DSNAP readme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JP.TXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 8. ServerView Suite V10.11.02 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager(SVOM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

```
It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)
```

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (3) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

- (4) ServerView Suite DVD1 に含まれる SVOM は、Red Hat Enterprise Linux 6(RHEL6)には対応していません。  
RHEL6 インストール時には、SVOM はインストールされません。

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

```
Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]
```

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明： ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。  
→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。
- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。  
→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。  
(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

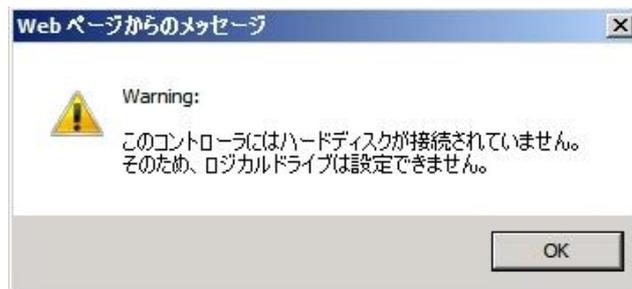
上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

## ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすこととなりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
  - ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。
- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。
- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順 6 では以下のよう  
に選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)
  - インストールモードの選択

① [ガイドモード] を選択します。

- パッケージ選択手順

① [インストール番号:] を入力します。

② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。

③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。

- Native Kernel

- ブートローダ手順

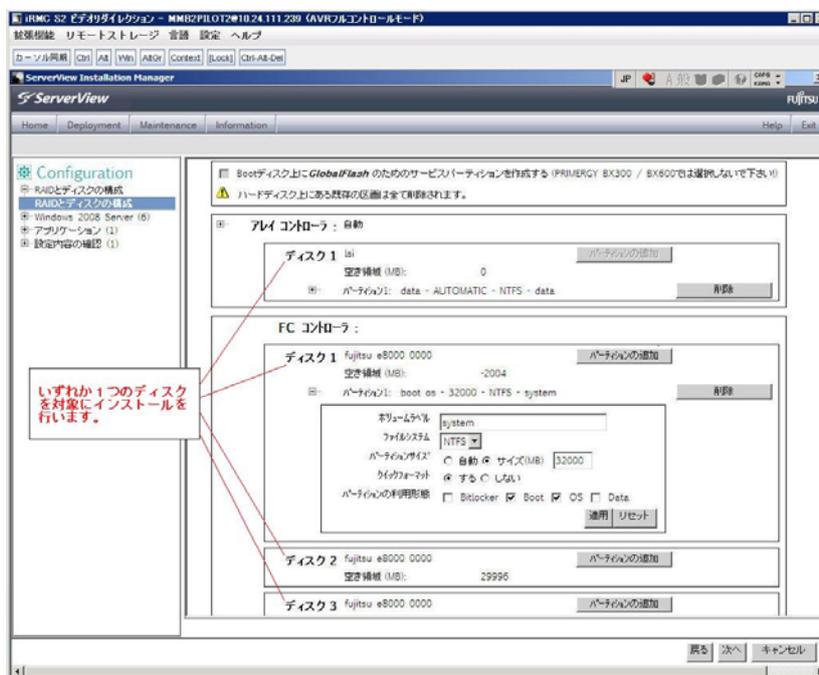
① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。

② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。

(7) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。

(8) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。

複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



(9) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。

- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
- ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(10) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(11) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。

(12) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

(13) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(14) マルチパス環境での動作をサポートしていません。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

(15) 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に以下メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(16) SVIM を使用して Windows OS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください。ボリュームラベルを入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(17) Windows の OS ディスクパーティションサイズの推奨値は、32GB 以上です。SVS 10.10.12 以降では OS のディスクパーティションが 32GB 未満の場合に、以下の警告を表示します。「警告：OS のパーティションサイズが小さすぎます。」

既にご使用頂いている環境については、OS ディスクパーティションサイズを変更する必要はありません。

(18) Red Hat Enterprise Linux ではネットワーク設定は OS インストール後に実施してください。

(19) Red Hat Enterprise Linux ではパスワードにシングルクォーテーションを使用できません。パスワードにシングルクォーテーションを含めたい場合は、「root パスワードの暗号化」を選択してください。

(20) Red Hat Enterprise Linux をインストールするさいに、余分なディスクパーティションが作成されることがあります。ServerView Installation Manager で指定したディスクパーティション構成の他に、ファイルシステムタイプが『fat32』のディスクパーティションが作成されることがあります。当該ディスクパーティションは、削除しても問題ありません。

(21) Red Hat Enterprise Linux では「プライマリパーティションにする」を選択しないでください。Red Hat Enterprise Linux のインストールを行う場合、RAID とディスクの構成画面のディスクパーティション設定において、「プライマリパーティションにする」は選択しないでください。

選択してインストールを行った場合、インストールが失敗することがあります。

- (22) Red Hat Enterprise Linux 5.5 では OS 修正パッケージの適用を推奨します  
SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページからダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html>

OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]

SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザーズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

- (23) Red Hat Enterprise Linux 6 ではファイルシステムは ext3 をご使用ください  
Red Hat Enterprise Linux6 のインストールを行う場合、swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプは『ext3』を使用することを強く推奨します。  
swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプを『ext3』に設定するには、ガイドモードを使用して、ディスクパーティション作成画面の「ファイルシステムタイプ」選択メニューで『ext3』を選択してください。  
なお、クイックモードでは、『ext4』が自動選択されます。『ext3』は設定できません。

- (24) Red Hat Enterprise Linux 6 では SNMP 設定の変更作業を実施してください  
SVIM を使用して、Red Hat Enterprise Linux 6 をインストールした環境において、/var/log/message に以下のような INFO レベルのログが多量に出力されます。

```
Jan 1 12:00:00 server0 snmpd[10274]: Connection from UDP: [127.0.0.1]:46573->[127.0.0.1]
```

/etc/snmp/snmpd.conf に、手動で dontLogTCPWrappersConnects yes を追加すると、ログ出力を抑えることができます。  
ファイルの修正後にサーバの再起動が必要です。

snmpd.conf 記述例

```
### SVRA{
### uncomment the following line for SuSE distributions
# rwcommunity public default 1.3.6.1.4.1.231.2.49.1
### uncomment the following line for RedHat distributions and VMware
# view systemview included 1.3.6.1.4.1.231.2.49.1
### }SVRA

#####

# Logging
#

dontLogTCPWrappersConnects yes
```

- (25) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面 (または UEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

- (26) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大4個です。  
5個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では3個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (27) Red Hat Enterprise Linux ではRAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動でLVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用してください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの7 Linux およびVMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (28) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (29) DSNAP readme ファイルはサーバ内に存在していません。  
PRIMEQUEST1000 シリーズ 運用管理マニュアル「11.4.4 調査情報の収集 (Windows)」に記されている  
README\_JP.TXT ファイルはサーバ上には存在しません。SVS DVD1 内の以下のフォルダに存在します。  
マウントドライブ : ¥SVSLocalTools¥Japanese¥DSNAP

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 9. ServerView Suite V10.11.05 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager(SVOM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (3) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

- (4) 新規インストール、又はアップデートインストールを行うと、稀に"致命的な エラー"が発生する場合があります。その場合、再度新規インストール、又はアップデートインストールを行ってください。
- (5) PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 を監視する場合は、5.10.09 版以降を使用してください。上記 SVOM は、富士通 PRIMEQUEST 添付ソフトウェア ダウンロード・サイトから入手可能です。
- (6) ドライバモニタ機能で検出したイベントは、事象が解消した場合、すみやかにステータスをクリアして下さい。ステータスがクリアしていない場合、ステータスが Normal 以外のハードウェアのイベントが抑止され、通報されません。

ステータスクリアの方法：

- (1)SVOM 画面からドライバモニタ画面を開く。
- (2)ステータスをクリアしたいコンポーネントを選択して、承認ボタンを押す。
- (3)画面上部の更新ボタンを押す。

- (7) [パーティションデータ] 画面の [システム] メニューより監視対象のシステム情報を表示した場合、CPU 数が実装数の 2 倍に表示されます。

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (3) PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 を監視する場合は、5.10.18 版(Linux)、5.10.05 版(Windows)以降を使用してください。  
上記 SVAgent は、富士通 PRIMEQUEST 添付ソフトウェア ダウンロード・サイトから入手可能です。
- (4) ドライバモニタで表示されるイベント情報は、OS の再起動、又は SVAgent の再起動で情報がクリアされます。

- (5) Red hat OS 使用時、ディスク、又は PCI カードの活性交換、又は活性追加を行った場合は SVAgent の再起動を行ってください。
- (6) ServerView Agents のインストール過程で、以下のメッセージがシスログに出力される場合がありますが、実動作上、問題ありません。  
ServerView: Agents Linux Starting ServerView agents: VersionView.sav does not exist! failed  
srvmagt.sh: Starting aborted with status 1 (General error).

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明 : ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。

→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。

- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。

(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

### ■ServerView Mission Critical Oprion (SVmco) の留意事項

- (1) Linux の場合、ディスクの活性交換を行った後は、SVmco サービスの停止/起動を実施して下さい。  
実施しないと、ハード構成情報が正しく REMCS センターに送信されません。
- (2) Windows の場合、PCI カードの活性交換を行った後は、SVmco サービスの停止/起動を実施して下さい。  
実施しないと、ハード構成情報が正しく REMCS センターに送信されません。

- (3) VMware における SVMco インストール後の設定(2.3.3 章)において、SVMco の再起動が必要な場合は、ターミナルウィンドウで以下の手順を実施して下さい。

```
/sbin/service y30SVMco stop
/sbin/service y10SVMco start
/sbin/service y30SVMco start
```

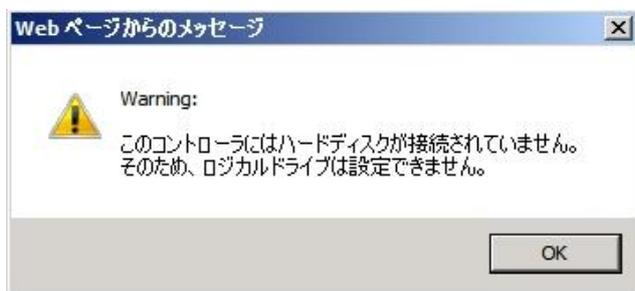
- (4) ハードディスクキャビネット(ETERNUS JX40)に搭載されているディスクで異常が発生した場合、REMCS 通報、又は Mail 通報において、ディスクの詳細情報(モデル名、ベンダ名、シリアル番号)が表示されない場合があります。(上記以外の異常発生箇所、メッセージの内容については、問題ありません)  
その為、ディスク交換時に必要なディスクの詳細情報をあらかじめ記録して、保管してください。
- (5) PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 を監視する場合は、SVMco をインストールして下さい。  
PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L を監視する場合は、SVMco をインストールしないで下さい。  
(PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の場合は、PSA が異常監視、通報を行います)

### ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

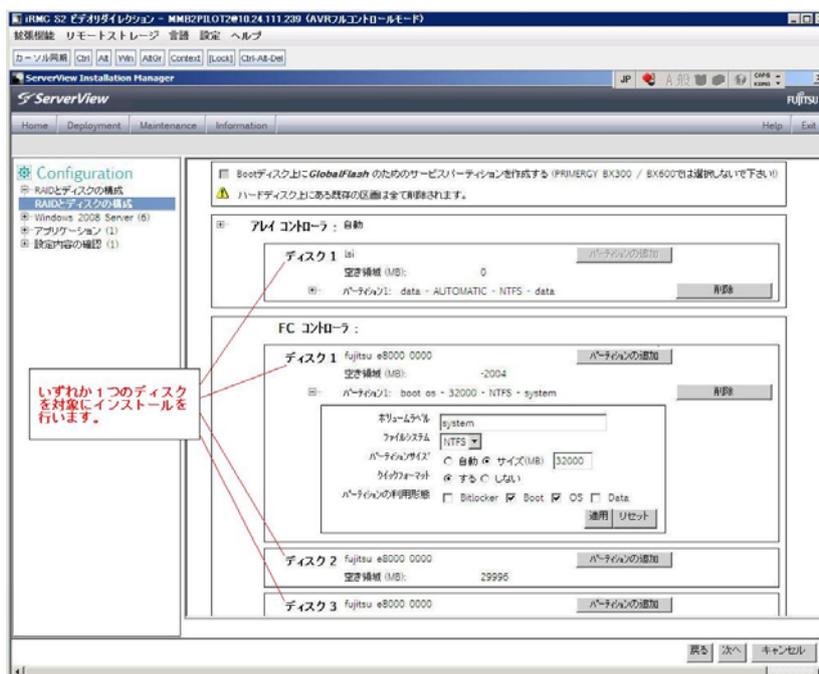
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラーが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラーが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。  
RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすこととなりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
- SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。

- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。
- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のよう  
 様に選択してください。(ただし、i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)  
 - インストールモードの選択  
 ① [ガイドモード] を選択します。  
 - パッケージ選択手順  
 ① [インストール番号:] を入力します。  
 ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。  
 ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。  
 - Native Kernel  
 - ブートローダ手順  
 ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。  
 ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。
- (8) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
 複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (9) PCI カードを 8 枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
  - SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
  - リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(10) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(11) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。

(12) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

(13) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(14) マルチパス環境での動作をサポートしていません。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

(15) 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に以下メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(16) SVIM を使用して Windows OS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください

ボリュームラベルを入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(17) Red Hat Enterprise Linux ではネットワーク設定は OS インストール後に実施してください。

(18) Red Hat Enterprise Linux ではパスワードにシングルクォーテーションを使用できません

パスワードにシングルクォーテーションを含めたい場合は、「root パスワードの暗号化」を選択してください。

(19) Red Hat Enterprise Linux では「プライマリパーティションにする」を選択しないでください

Red Hat Enterprise Linux のインストールを行う場合、RAID とディスクの構成画面のディスクパーティション設定において、「プライマリパーティションにする」は選択しないでください。選択してインストールを行った場合、インストールが失敗することがあります。

(20) Red Hat Enterprise Linux 5.5 では OS 修正パッケージの適用を推奨します

SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページからダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html>

OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて

以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]

SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザーズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

(21) Red Hat Enterprise Linux 6 ではファイルシステムは ext3 をご使用ください

Red Hat Enterprise Linux6 のインストールを行う場合、swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプは『ext3』を使用することを強く推奨します。

swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプを『ext3』に設定するには、ガイドモードを使用して、ディスクパーティション作成画面の「ファイルシステムタイプ」選択メニューで『ext3』を選択してください。なお、クイックモードでは、『ext4』が自動選択されます。『ext3』は設定できません。

(22) Red Hat Enterprise Linux 6 では SNMP 設定の変更作業を実施してください

SVIM を使用して、Red Hat Enterprise Linux 6 をインストールした環境において、/var/log/message に以下のような INFO レベルのログが多量に出力されます。

```
Jan 1 12:00:00 server0 snmpd[10274]: Connection from UDP: [127.0.0.1]:46573->[127.0.0.1]
```

/etc/snmp/snmpd.conf に、手動で dontLogTCPWrappersConnects yes を追加すると、ログ出力を抑えることができます。ファイルの修正後にサーバの再起動が必要です。

snmpd.conf 記述例

```
### SVRA{
### uncomment the following line for SuSE distributions
# rwcommunity public default 1.3.6.1.4.1.231.249.1
### uncomment the following line for RedHat distributions and VMware
# view systemview included 1.3.6.1.4.1.231.249.1
### }SVRA

#####

# Logging
#

dontLogTCPWrappersConnects yes
```

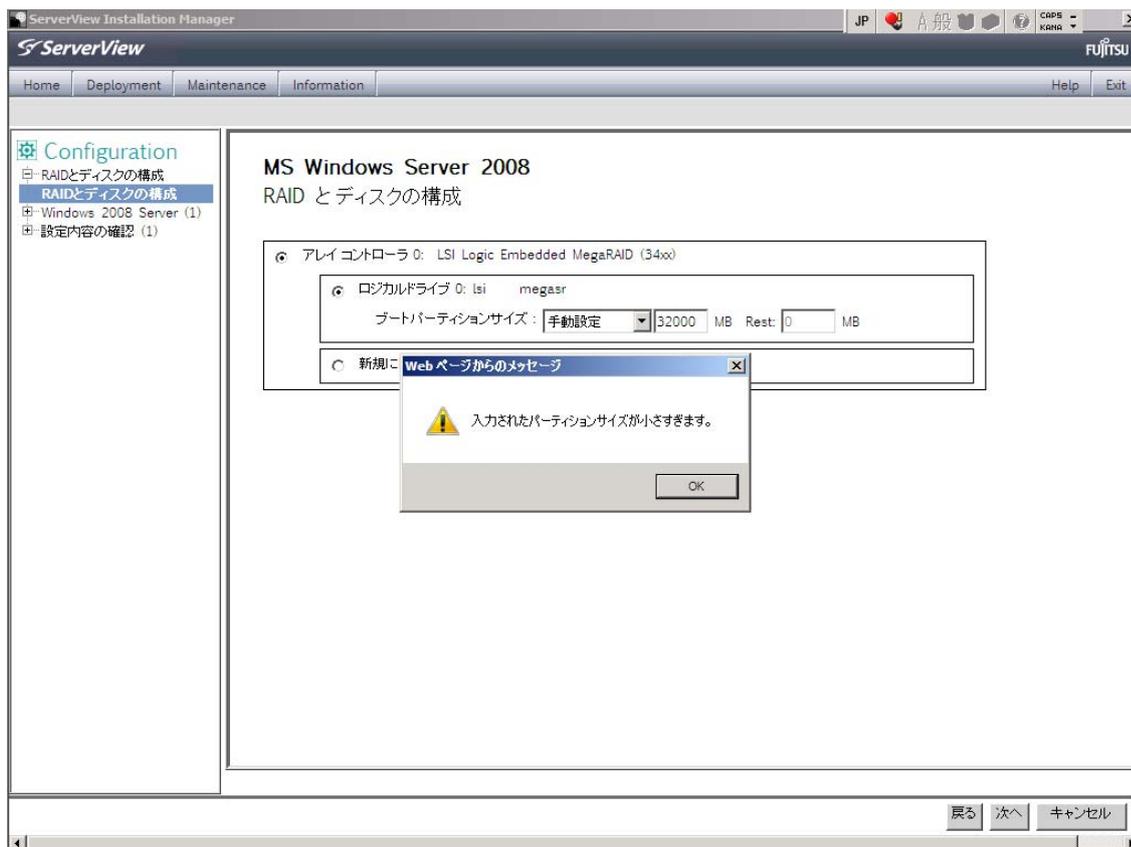
(23) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

(24) Windows Server 2008R2 に SP1 を適用するには時間がかかることがあります。

Windows Server 2008 R2 をインストールするさい、ServicePack1 をインストールする場合に機種によっては数時間かかることがあります。

- (25) Windows Server 2008 / R2 を UEFI モードでインストールするには、手動で RAID を構築してください。  
Windows Server 2008 / R2 を UEFI モードでインストールする場合、SVIM での RAID の構築はできません。予め手動で RAID 構築をしてください。
- (26) Server Configuration Manager 画面で PRIMEQUEST 1000x2 シリーズは PRIMEQUEST 1400S2, PRIMEQUEST 1800S2 と表示されます。  
Server Configuration Manager 画面で PRIMEQUEST 1000x2 シリーズは PRIMEQUEST1400S2, PRIMEQUEST1800S2 と表示されます。機種を選択するさいは PRIMEQUEST 1400 S2/E2/L2 は PRIMEQUEST1400 S2 を、PRIMEQUEST 1800 E2/L2 は PRIMEQUEST 1800S2 を選択してください。
- (27) Windows Server 2003 R2 をインストールするさいのデフォルトディスクパーティションサイズはクイックモードとガイドモードで異なります。  
デフォルトディスクパーティションサイズは以下です。
- |         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| クイックモード | : RAID 構築を予め指定した場合    | 32000MB |
|         | RAID 構築を SVIM で実施する場合 | 15360MB |
| ガイドモード  | : RAID 構築を予め指定した場合    | 32000MB |
|         | RAID 構築を SVIM で実施する場合 | 32000MB |
- なお、最低ディスクパーティションサイズは 15360MB です。
- (28) Windows Server 2008 / R2 をクイックモードでインストールするさいディスクと RAID とディスクの構成画面で警告メッセージが表示されます。  
以下に示すメッセージが表示されます。動作には問題ありませんので「OK」をクリックし、操作を続行してください。



- (29) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です。  
5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスクの構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。

- (30) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません  
インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用ください。  
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。
- (31) UEFI モードでインストールするさいは、RAID コントローラー 1 台構成で実行してください。  
複数の RAID コントローラーが接続された状態ではインストールが失敗することがあります。
- (32) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (33) PRIMEQUEST 1800E2/L2 モデルに UEFI モードで OS をインストールするさいは、x2APIC モードを Disable にして実施してください。  
x2APIC モードを Enable にしてインストールは行えません。なお、出荷時の x2APIC モードは Disable です。
- (34) Windows Server 2008 R2 に SP1 を適用するにはディスク空き領域が 9GB 以上必要です。  
空き領域が不足する場合は、SVIM での OS インストール処理後に 9GB 以上の空き領域を確保してから、手動で SP1 の適用を行ってください。
- (35) UEFI モードでのインストールは Windows Server 2008 / R2 のみとなっております。  
Windows Server 2008 / R2 以外の OS では UEFI モードでのインストールをおこなわないでください。
- (36) Windows Server をインストールする際のデフォルトディスクパーティションサイズはクイックモードとガイドモードで異なります  
デフォルトディスクパーティションサイズは以下です。
- Windows Server 2003 R2
- |         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| クイックモード | : RAID 構築を予め指定した場合    | 32000MB |
|         | RAID 構築を SVIM で実施する場合 | 15360MB |
| ガイドモード  | : RAID 構築を予め指定した場合    | 32000MB |
|         | RAID 構築を SVIM で実施する場合 | 32000MB |
- 最低パーティションサイズは 15360MB です。
- Windows Server 2008 / R2
- |         |                       |         |
|---------|-----------------------|---------|
| クイックモード | : RAID 構築を予め指定した場合    | 32000MB |
|         | RAID 構築を SVIM で実施する場合 | 32768MB |
| ガイドモード  | : RAID 構築を予め指定した場合    | 32768MB |
|         | RAID 構築を SVIM で実施する場合 | 32768MB |
- 最低ディスクパーティションサイズはデフォルトサイズです。
- インストール処理時に一時的な作業領域が必要なため、Windows Server 2008 / R2 をインストールするには、32GB の SSD は容量不足となり使用できません。
- (37) UEFI モードでインストールする際には SVIM の「RAID とディスクの構成画面」で新規 RAID を指定したインストールは行えません。  
WebBIOS を使用して RAID 構築を行い、「RAID とディスクの構成画面」では既存の RAID を使用するにチェックしてインストールを行ってください。
- (38) UEFI 非対応 OS をインストールする場合は注意が必要です。

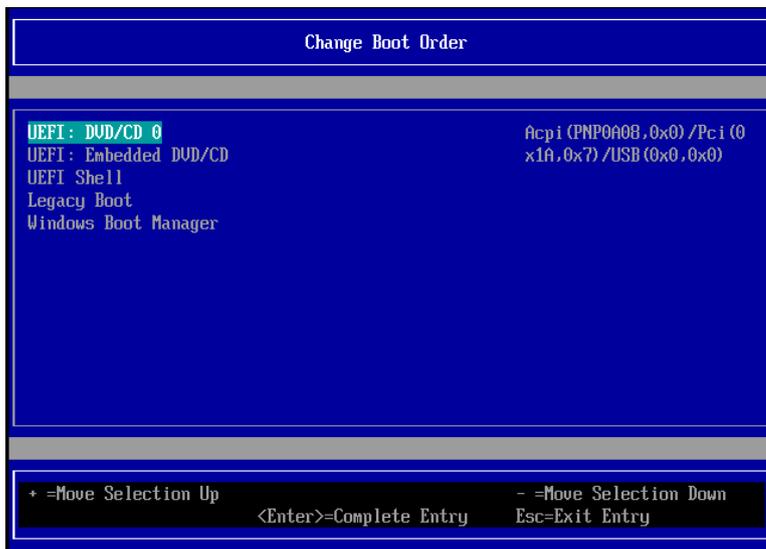
PRIMEQUEST は工場出荷時 UEFI モードです。UEFI に対応していない OS をインストールするにはあらかじめ BIOS モードに設定してからインストールを行ってください。

UEFI に対応している OS は以下です。

- Windows Server 2008 (64bit)
- Windows Server 2008 R2
- Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)

BIOS モードの設定は以下の手順に従ってください。

- ① パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に F2 キーを押し、UEFI 画面を表示させます。
- ② UEFI 画面で次の順にメニューを選択します。  
[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Change Boot Order]—  
[Change the order]
- ③ 「**Legacy Boot**」が最上段になるように指定します。



以下にメニューの意味を示します。

**UEFI: Embedded DVD/CD** 内蔵 DVD ドライブを使用し UEFI モードでインストールするときに指定します。

**Legacy Boot** BIOS モードにするときに指定します。リモートストレージを使用し BIOS モードでインストールするときにもこの指定をします。

**UEFI Shell** 起動時に UEFI のコマンドプロンプトを表示させます。

- ④ [Commit Changes and Exit]—[Reset System]を指定しパーティションをリブートします。

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

## 10. ServerView Suite V10.11.06 に関する留意事項

### ■ServerView Operations Manager(SVOM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST 1000 シリーズをサーバリストへ追加する場合、以下の点に注意してください。  
サーバリストへのオブジェクトの追加時に、PRIMEQUEST 1000 シリーズを追加する場合は、MMB (Management Board) を指定してください。パーティションを直接指定すると、以下のメッセージが出力され、オブジェクトの追加ができません。

It is not allowed to add the virtual PRIMEQUEST partition(s)

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (3) PRIMEQUEST MMB に対して、接続をテストすると、「接続テスト」ウィンドウの「テストトラップ」が常に失敗します。  
MMB のテストトラップ機能を使用して、トラップの接続をテストして下さい。MMB のテストトラップ機能の詳細については、以下のマニュアルを参照下さい。

PRIMEQUEST 1000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス  
1.5.6 [SNMP Configuration]メニュー  
■[SNMP Trap] 画面

- (4) 新規インストール、又はアップデートインストールを行うと、稀に"致命的な エラー"が発生する場合があります。その場合、再度新規インストール、又はアップデートインストールを行ってください。
- (5) PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 を監視する場合は、5.10.09 版以降を使用してください。上記 SVOM は、富士通 PRIMEQUEST 添付ソフトウェア ダウンロード・サイトから入手可能です。
- (6) ドライバモニタ機能で検出したイベントは、事象が解消した場合、すみやかにステータスをクリアして下さい。ステータスがクリアしていない場合、ステータスが Normal 以外のハードウェアのイベントが抑止され、通報されません。

ステータスクリアの方法：

- (1)SVOM 画面からドライバモニタ画面を開く。
- (2)ステータスをクリアしたいコンポーネントを選択して、承認ボタンを押す。
- (3)画面上部の更新ボタンを押す。

- (7) [パーティションデータ] 画面の [システム] メニューより監視対象のシステム情報を表示した場合、CPU 数が実装数の 2 倍に表示されます。

### ■ServerView Agents の留意事項

- (1) Red hat OS 使用時、OS のランレベルを変更した場合 (3→5、5→3 など)、OS 起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが、動作には影響ありません。

Starting ServerView modules: stop service eecd first![失敗]

- (2) PRIMEQUEST 1000 シリーズを監視する場合は、4.92 版以降を使用してください。
- (3) PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 を監視する場合は、5.10.18 版(Linux)、5.10.05 版(Windows)以降を使用してください。  
上記 SVAgent は、富士通 PRIMEQUEST 添付ソフトウェア ダウンロード・サイトから入手可能です。
- (4) ドライバモニタで表示されるイベント情報は、OS の再起動、又は SVAgent の再起動で情報がクリアされます。

- (5) Red hat OS 使用時、ディスク、又は PCI カードの活性交換、又は活性追加を行った場合は SVAgent の再起動を行ってください。
- (6) ServerView Agents のインストール過程で、以下のメッセージがシスログに出力される場合がありますが、実動作上、問題ありません。  
ServerView: Agents Linux Starting ServerView agents: VersionView.sav does not exist! failed  
srvmagt.sh: Starting aborted with status 1 (General error).

### ■ServerView RAID の留意事項

- (1) SAN ブート構成でご使用の場合、ServerView RAID Manager を使用して内蔵ハードディスクに対して、ロジカルドライブの作成または削除を行った場合、ロジカルドライブを OS に認識させるために OS の再起動が必要です。
- (2) diskctrl コマンドで、"ディスク回転停止指示" を行なった場合、ServerView RAID から、以下のメッセージが出力される場合がありますが、これは "ディスク回転停止指示" に伴い発生したものであり、動作上問題ありません。

Event ID: 10451

Message: State change on disk ([..]) from available to failed

<出力例>

ServerView RAID: [10451][Error] Adapter Linux Multiple Devices (0): State change on disk (sdb 8:16) from available to failed

- (3) Windows 環境において、以下のイベント (ID 51) が発生した場合、RAID カードの故障が考えられますので、以下の手順に従い、RAID カード故障かどうか確認の上、カードの交換をお願いします。

- ① 以下のイベントがイベントログに記録されているか確認します。

イベント ID : 51

種類 : 警告

ソース : Disk

説明 : ページング操作中にデバイス ¥Device¥Harddisk¥DRy 上でエラーが検出されました。

→記録されている場合は、②へ。

- ② ServerView RAID 画面から、上記①で発生したデバイスが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、③へ。

- ③ ServerView RAID 画面から、上記②上の RAID コントローラカードが表示されているか確認します。

→実装しているにも関わらず、表示されていない場合は、RAID コントローラカードを交換します。

(SAS アレイディスクユニット、または外付け RAID カード)

上記以外の場合は、Microsoft が提示しているトラブルシューティング情報に従ってください。

### ■ServerView Mission Critical Oprion (SVmco) の留意事項

- (1) Linux の場合、ディスクの活性交換を行った後は、SVmco サービスの停止/起動を実施して下さい。実施しないと、ハード構成情報が正しく REMCS センターに送信されません。
- (2) Windows の場合、PCI カードの活性交換を行った後は、SVmco サービスの停止/起動を実施して下さい。実施しないと、ハード構成情報が正しく REMCS センターに送信されません。

- (3) VMware における SVMco インストール後の設定(2.3.3 章)において、SVMco の再起動が必要な場合は、ターミナルウィンドウで以下の手順を実施して下さい。

```
/sbin/service y30SVMco stop
/sbin/service y10SVMco start
/sbin/service y30SVMco start
```

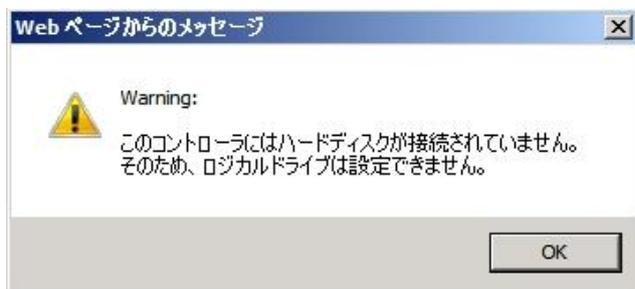
- (4) ハードディスクキャビネット(ETERNUS JX40)に搭載されているディスクで異常が発生した場合、REMCS 通報、又は Mail 通報において、ディスクの詳細情報(モデル名、ベンダ名、シリアル番号)が表示されない場合があります。(上記以外の異常発生箇所、メッセージの内容については、問題ありません)  
その為、ディスク交換時に必要なディスクの詳細情報をあらかじめ記録して、保管してください。
- (5) PRIMEQUEST 1400S2/1400E2/1400L2/1800E2/1800L2 を監視する場合は、SVMco をインストールして下さい。  
PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L を監視する場合は、SVMco をインストールしないで下さい。  
(PRIMEQUEST 1400S/1400E/1400L/1800E/1800L の場合は、PSA が異常監視、通報を行います)

### ■ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

- (1) HBAware 起動時に警告メッセージが表示されることがあります。  
ServerView Installation Manager でアプリケーション HBAware を自動インストールした場合、HBAware の起動時に以下のような警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視しても構いません。

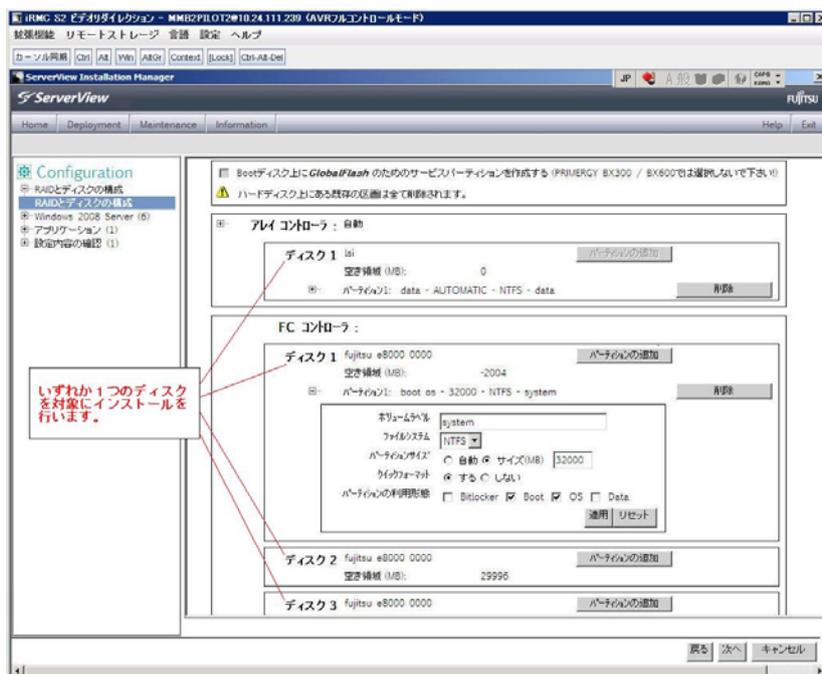
“RMServer: Failed to register remote request handler for adapter 0 with driver. “

- (2) ハードディスクを接続しない RAID コントローラーが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。  
RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラーが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



- (3) RAID 構築時に「ホットスペア」オプションを指定する場合は、ハードディスク数に注意してください。  
RAID とディスクの構成において「ホットスペア」オプションを指定すると、RAID を構築するハードディスクに加え、冗長構成するためのハードディスクが 1 台必要となります。  
ハードディスク数が足りないままインストールを実行すると、すべての設定を最初から実行しなおすこととなりますのでご注意ください。
- (4) Windows Server®2003、Windows Server®2003R2 をインストールする際は、ServicePack2 (SP) が必要です。以下に留意してください。
- ・ SAN 対応ディスクアレイへインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD を使用してください。  
SP2 統合版 CD/DVD が存在しない Windows Server2003 はインストールできません。
  - ・ 内蔵記憶装置へインストールする場合  
SP2 が統合された統合版 CD/DVD または SP2 の CD を使用してください。  
SP2 の CD を使用するには「インストールモード」にガイドモードを選択し、「アプリケーションウィザード」の「Add-On Packages」で [MS Windows Server 2003 Service Pack 2 - Japanese] チェックボックスをオンにします。

- (5) RHEL5.3 のインストールを行うには、SVS V10.10.04 をお使いください。
- (6) RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化 (XEN カーネル環境) をインストールする場合、手順6では以下のよう  
 ① [インストール番号:] を入力します。  
 ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。  
 ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。  
 - Native Kernel  
 - ブートローダ手順  
 ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。  
 ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。
- (7) SAN ブート環境を構築する際、SAS アレイディスクユニットが接続されている場合は、ディスクユニット (HDD、SSD、JX40 内 HDD) をスロットから外しインストールしてください。
- (8) ガイドモードで RAID とディスクの構成を行う場合、以下の注意事項があります。  
 複数のディスクに亘ってディスクパーティションを設定しないでください。複数のディスクにディスクパーティションを設定するには、インストール終了後に手動で行ってください。



- (9) PCI カードを8枚以上接続する場合は、I/O 空間割り当ての変更が必要となります。以下に注意してください。
- ・ SASU/SASRU に I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ SAN 環境にインストールする場合は、SAN 環境を接続している FC カードに I/O 空間割り当てを行ってください。
  - ・ リモートインストールする場合は、内蔵 LAN ポートに I/O 空間割り当てを行ってください。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110) の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(10) デュアルチャネル SAS アレイコントローラカードをご使用のさい、以下の注意事項があります。

Red Hat Enterprise Linux でデュアルチャネル SAS アレイコントローラカード(外付ディスク装置用 RAID カード)をご使用のさい、事前に I/O 空間割り当てを行なってください。

当該のカードを搭載した状態で I/O 空間割り当てを行わない場合、Red Hat Enterprise Linux インストール後に OS が起動しないことがあります。

I/O 空間割り当ての方法は「PRIMEQUEST 1000 シリーズ運用管理ツールリファレンス」(C122-E110)の「5.5 Device Manager メニュー」を参照してください。

(11) SVIM のリモートインストール機能を利用して、内蔵ハードディスクに対し RHEL5.5 または Windows Server 2008R2 をインストールすることができます。

(12) リモートインストールで RHEL をインストールする場合は、Linux コンピュータを FTP/HTTP サーバとしてご使用ください。

Windows コンピュータを FTP/HTTP サーバとして使用すると、図のようなエラーが発生することがあります。



この現象は RHEL ディストリビューションディスクを Windows コンピュータにコピーする際に、ファイル名が 64 文字に切り詰められることが原因です。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38` (63 文字に切り詰められます)

正しいファイル名

`jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm`

(13) SAN 環境など、多数のハードディスクおよび LUN が接続された環境では、以下の注意事項があります。

本ソフトウェアが認識するハードディスクおよび LUN の個数は 64 までです。多数のハードディスクおよび LUN が接続されている場合は、インストール対象が認識されなくなる場合があります。インストール対象とするハードディスクおよび LUN 以外はなるべく外して実行してください。

(14) マルチパス環境での動作をサポートしていません。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできません。事前に FC パスを切断またはシングルパス状態にしてからインストールしてください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。マルチパス構成が未構築の環境では、シングルパス構成でインストールを実施した後にマルチパス構成を設定してください。

(15) 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に以下メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(16) SVIM を使用して Windows OS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください

ボリュームラベルを入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(17) Red Hat Enterprise Linux ではネットワーク設定は OS インストール後に実施してください。

(18) Red Hat Enterprise Linux ではパスワードにシングルクォーテーションを使用できません

パスワードにシングルクォーテーションを含めたい場合は、「root パスワードの暗号化」を選択してください。

(19) Red Hat Enterprise Linux 5.5 では OS 修正パッケージの適用を推奨します

SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページからダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html>

OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]

SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザーズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

- (20) Red Hat Enterprise Linux 6 ではファイルシステムは ext3 をご使用ください  
Red Hat Enterprise Linux6 のインストールを行う場合、swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプは『ext3』を使用することを強く推奨します。  
swap 以外のディスクパーティションのファイルシステムタイプを『ext3』に設定するには、ガイドモードを使用して、ディスクパーティション作成画面の「ファイルシステムタイプ」選択メニューで『ext3』を選択してください。  
なお、クイックモードでは、『ext4』が自動選択されます。『ext3』は設定できません。
- (21) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください。  
テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(またはUEFI 設定画面) で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。
- (22) Windows Server 2008R2 に SP1 を適用するには時間がかかることがあります。  
Windows Server 2008 R2 をインストールするさい、ServicePack1 をインストールする場合に機種によっては数時間かかることがあります。
- (23) Windows Server 2008/R2 をUEFI モードでインストールするには、手動でRAID を構築してください。  
Windows Server 2008/R2 をUEFI モードでインストールする場合、SVIM でのRAID の構築はできません。予め手動でRAID 構築をしてください。
- (24) Server Configuration Manager 画面で PRIMEQUEST 1000x2 シリーズは PRIMEQUEST 1400S2, PRIMEQUEST 1800S2 と表示されます。  
Server Configuration Manager 画面で PRIMEQUEST 1000x2 シリーズは PRIMEQUEST1400S2, PRIMEQUEST1800S2 と表示されます。機種を選択するさいは PRIMEQUEST 1400 S2/E2/L2 は PRIMEQUEST 1400S2 を、PRIMEQUEST 1800 E2/L2 は PRIMEQUEST 1800S2 を選択してください。
- (25) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大4個です。  
5個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスクの構成画面では3個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。
- (26) UEFI モードでインストールするさいは、RAID コントローラー1台構成で実行してください。  
複数のRAID コントローラーが接続された状態ではインストールが失敗することがあります。
- (27) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックにUTCを使用」のチェックをはずしてください  
日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックにUTCを使用しません。  
OS の設定画面において「システムクロックにUTCを使用」の項目は、チェックをはずしてください。
- (28) PRIMEQUEST 1800E2/L2 モデルにUEFI モードでOS をインストールするさいは、x2APIC モードを Disable にして実施してください。  
x2APIC モードを Enable にしてインストールは行えません。なお、出荷時のx2APIC モードは Disable です。
- (29) Windows Server 2008 R2 に SP1 を適用するにはディスク空き領域が9GB 以上必要です。  
空き領域が不足する場合は、SVIM での OS インストール処理後に9GB 以上の空き領域を確保してから、手動でSP1 の適用を行ってください。
- (30) WindowsServer をインストールする際のデフォルトディスクパーティションサイズを変更しました。  
デフォルトディスクパーティションサイズは以下です。
- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| Windows Server 2003 R2: | 15360MB |
| Windows Server 2008/R2: | 33792MB |

最小ディスクパーティションサイズはデフォルトサイズと同値です。

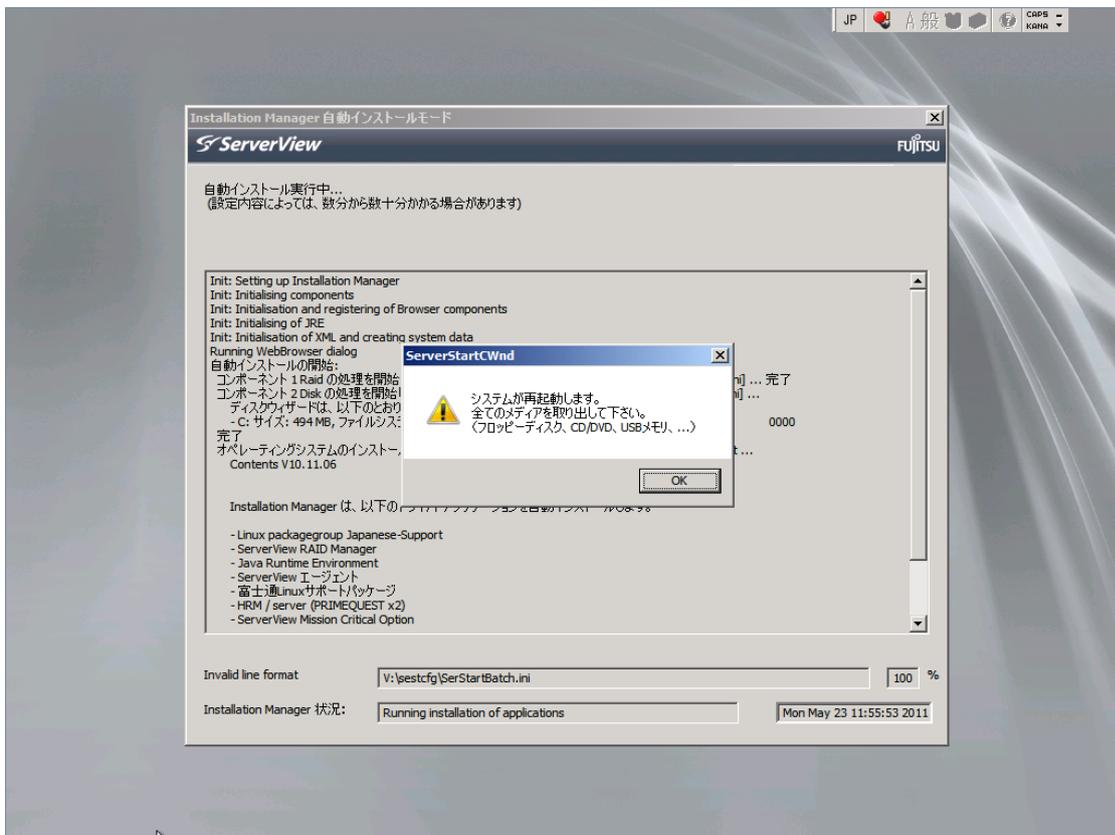
(31) Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)をUEFIモードでインストールするさいには次の手順を実施してください。

#### 1. SVIM の起動

- ① DVD ドライブにSVS DVD1 をセットし、パーティションの電源を入れます。
- ② FUJITU ロゴ表示中に任意のキー (Enter キー以外) を押しUEFI のメニューを起動します。
- ③ UEFI 画面でBoot デバイスをUEFI DVD に指定してください。  
メニューを次の順に選択する[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Change Boot Order]—  
[Change the order]  
—リモートストレージDVDを使用する場合は UEFI:DVD/CD0 を最上段にします。  
—内蔵DVDを使用する場合は UEFI: Embedded DVD/CD を最上段にします。
- ④ [Commit Changes and Exit]—[Reset System]を指定しパーティションをリブートします。

#### 2. RHEL の起動時にUEFI ブートを指定

- ① 次の画面となったらDVD ドライブからメディアを取り外し、OK をクリックします。



- ② FUJITU ロゴ表示中に任意のキー (Enter キー以外) を押しUEFI のメニューを起動します。
- ③ メニューを次の順に選択する[Boot Manager]—[UEFI Shell]を選択します。
- ④ コマンドラインへ[fs0:]と入力し[Enter]キーを押下します。
- ⑤ [~~Y~~efi~~Y~~boot~~Y~~elilo.efi]と入力し[Enter]キーを押下します。

```

EFI Shell version 2.30 [1.15]
Current running mode 1.1.2
Device mapping table
  fs0 :HardDisk - Alias hd20bofopypxrexcrcr0b blk0
        Acpi (PNP0A08,0x0) /Pci (0x3,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pc
i (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Fibre (0x2072000B5D6A0510,0x0) /HD (1,MBR,0x45D59AE8,0x3F,0
xF7140)
  blk0 :HardDisk - Alias hd20bofopypxrexcrcr0b fs0
        Acpi (PNP0A08,0x0) /Pci (0x3,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pc
i (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Fibre (0x2072000B5D6A0510,0x0) /HD (1,MBR,0x45D59AE8,0x3F,0
xF7140)
  blk1 :BlockDevice - Alias (null)
        Acpi (PNP0A08,0x0) /Pci (0x3,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Pc
i (0x0,0x0) /Pci (0x0,0x0) /Fibre (0x2072000B5D6A0510,0x0)

Press ESC in 1 seconds to skip startup.nsh, any other key to continue.
Shell> fs0:

fs0:\> \efi\boot\elilo.efi_

```

⑥ その後、画面の指示に従いインストールを続行してください。

(32) UEFI モードでインストールする際にはリモートインストールは使用できません。

ローカルインストールを使用してください。

(33) Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)を UEFI モードでインストールする際には root パスワードの暗号化が使用できません。

設定したパスワードでログオンできなくなる場合があります。パスワードの暗号化を使用しないでください。

(34) FC カード及び CNA カード・CNA 拡張ボードのドライバについて

Windows OS をインストールされた場合、且つ下記の FC カード及び CNA カード・CNA 拡張ボードをご利用の際は、弊社ダウンロードサイトから最新ドライバをダウンロードし上書きインストールを行ってください。

#### ■対象カード

PRIMEQUEST 向け FC カード

-MC-0JFC11/1L

-MC-0JFC21/2L

#### ■PRIMEQUEST 向けドライバ公開サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/primequest/download/1000/driver/f1013262.html>

→ファイバーチャネルカード(MC-0JFC11/1L,MC-0JFC21/2L)StorportMiniportDriver V2.41.003

#### ■ドライバ適用手順

ドライバモジュール内の取扱い説明書「FC\_v2.41.003.pdf」

2.1 章 Storport Miniport ドライバの自動インストール手順

を参照してください。(参考に添付します)

(35) UEFI モードでインストールする際にはSVIM の「RAID とディスクの構成画面」で新規 RAID を指定したインストールは行えません。

WebBIOS を使用して RAID 構築を行い、「RAID とディスクの構成画面」では既存の RAID を使用するにチェックしてインストールを行ってください。

(36) UEFI 非対応 OS をインストールする場合は注意が必要です。

PRIMEQUEST は工場出荷時 UEFI モードです。UEFI に対応していない OS をインストールするにはあらかじめ BIOS モードに設定してからインストールを行ってください。

UEFI に対応している OS は以下です。

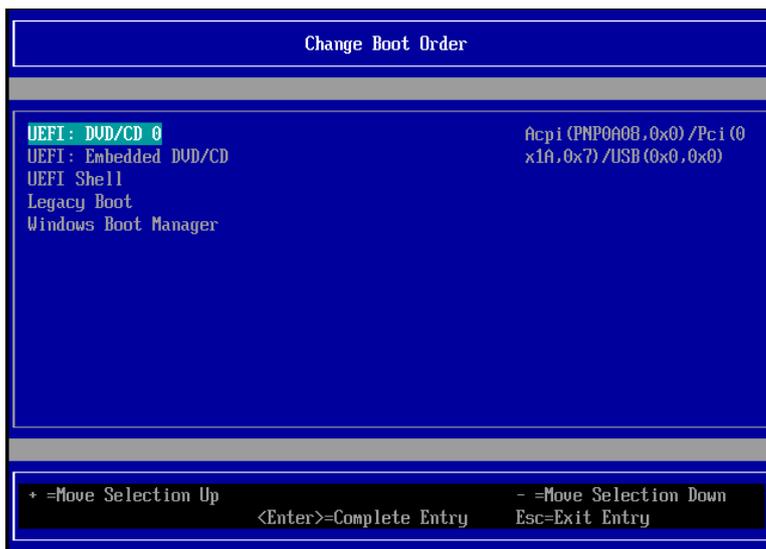
Windows Server 2008 (64bit)

Windows Server 2008 R2

Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)

BIOS モードの設定は以下の手順に従ってください。

- ① パーティションの電源投入後 FUJITSU ロゴが表示されている間に F2 キーを押し、UEFI 画面を表示させます。
- ② UEFI 画面で次の順にメニューを選択します。  
[Boot Maintenance Manager]—[Boot Options]—[Change Boot Order]—  
[Change the order]
- ③ 「Legacy Boot」が最上段になるように指定します。



以下にメニューの意味を示します。

**UEFI: Embedded DVD/CD** 内蔵 DVD ドライブを使用し UEFI モードでインストールするときに指定します。

**Legacy Boot** BIOS モードにするときに指定します。リモートストレージを使用し BIOS モードでインストールするときにもこの指定をします。

**UEFI Shell** 起動時に UEFI のコマンドプロンプトを表示させます。

- ④ [Commit Changes and Exit]—[Reset System]を指定しパーティションをリブートします。

#### ■ServerView Update Manager(SVUM)の留意事項

- (1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

#### ■ServerView Update Manager Express(SVUME)の留意事項

(1) PRIMEQUEST は、サポート対象外です。

以上

**FUJITSU**